

第一章
用水の開削



第1節 開削前の村々

第一節 開削前の村々

一 (六〇〇)
慶長五年正月九日 御宿村検地外の荒地開発横田村

詮手形

以上

駿東郡御宿村繩ノ外之荒地可作候由尤ニ候、納所之儀応
其毛ニ可為見取候、然上彼田地ニ新家をたて令作者於有
之ハ、諸役等可令免除者也

慶長五年

内膳正

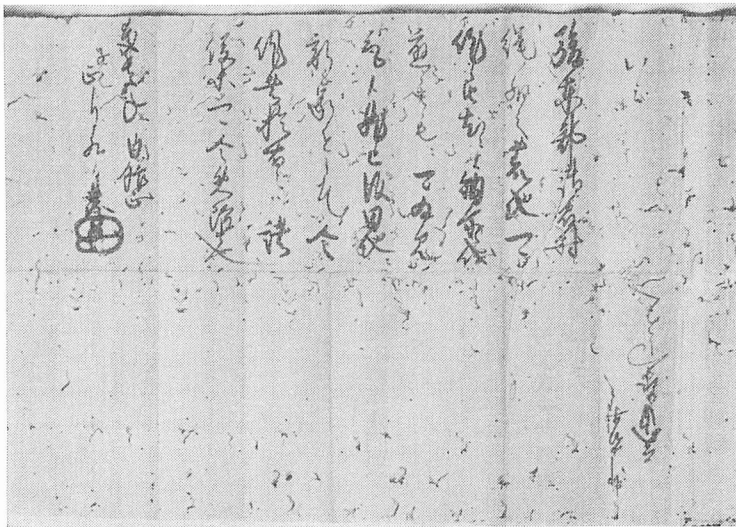
子正月九日

村詮(花押)

御宿村之

宮内左衛門とのへ

(裾野市御宿 湯山 博氏所蔵)



二 (慶長六年) 八月五日 御宿村檢地外の荒地開発某対

馬守手形

已上

駿東郡御宿村繩之外の荒地可作候由尤ニ候、納所之儀応其毛ニ可為見取候、然上彼田地ニ新家をたて令作者於有之ハ、諸役等可令免除者也

対馬守

丑八月五日

(花押) 印

御宿村之

宮内左衛門

(裾野市御宿 湯山 博氏所蔵)

三 (元禄五年) 九月二十六日 本宿新田開発今宮惣左衛門達

書

以上

本宿新田之儀、其方ニ申付候間、三年者作取ニさせ可申候、口用之儀者無利ニ借シ并役等屋別之儀者永ク可令免許候、其上きも入免ニ屋敷忝間出し可申候間、才覚候而為開可被申候、仍如件

元和五年

未九月廿六日

今 惣左 印

本宿

久左衛門殿

(長泉町 高田悦子氏所蔵)

四 (正保四年) 一月二三日 御宿村上野原荒地開発願書、

野村彦太夫代裏書

御訴訟申上候事

一 御宿村之内上野原・かミあらい・とうかうそうり三ヶ所ニ而三拾九石余之永荒、先年々之御割付ニも荒ニ立申候ニ付、此跡今宮惣左衛門殿御代ニ、我等親六郎右

衛門御訴訟申上、彼地を切発御 公方へ御納所可致之

由申上候ニ付、則惣左衛門殿々御証文を被下、彼地之

内式ヶ所ハ人居近所之義ニ御座候ニ付而、先式ヶ所ヲ

切発候へ由御証文被下候ニ付而、我等親彼地ヲ切発

御 公方へ御納所仕、其上三拾九石之荒地之御役をも

勤申候所ニ 大納言様御代ニ御宿村小給人ニ渡り候所

ニ、彼地をも本田同事ニ御取ヶ被仰付候ニ付、荒発之

場ニ御座候得ハ、本田なミニ御納所不罷成、彼地を捨

我等親六郎右衛門牢人仕候、只今我等兄弟とも数多御

座候へハ、先々々之名田ハ持不申候、何共身上すぎ可

申様も無御座候間、今宮惣左衛門殿被下候御証文之通

り只今御訴訟申上候、此上ハ拙者共勢力次第彼地切発、

御宿村永荒三拾九石余を只今令御役を勤、以来ハ御見

立次第ニ御年貢御納所可申上候間、右式ヶ所拙者共ニ

被仰付可被下候、為其御訴訟申上候、以上

正保四年亥十一月廿三日

金沢村

七左衛門 印

同

八左衛門 印

御代官様

右表書之通、御宿村高之内上野原・かミあらい本田荒地

之内、此跡今宮惣左衛門殿御代ニ六郎右衛門開可申由ニ

て、惣左衛門殿々証文を取令開発候所ニ、大納言様御代

ニ彼地を捨置、其時分々于今荒候所ニ御宿村之もの荒地

ニ諸役仕候義迷惑之由兼々申候、幸此度其方兩人親之見

立之場ニ候間、荒高三拾九石余之諸役ヲ致、彼地ヲ開可

申由訴訟状上候間、右式ヶ所之荒地早々開可申候、御物

成之儀ハ以来見分之上可申付候、為後日うら書、仍如件

正保四年亥十一月廿三日

野村彦太夫代

小藤善兵衛 印

藤田長右衛門 印

玉井庄左衛門 印

(裾野市御宿 湯山 博氏所蔵)

三 (一六五〇)
慶安三年八月二八日 大畑村他五ヶ村山林・古跡・

用水等書上

大畑村

金左衛門

一 居村^ノ愛鷹山下野草蒔場へ^モ里、薪取場へ^モ式里拾五町御座候

一 同村田地之用水ハ山出水カ^ハリニ而御座候

一 百姓林長八拾間・横五拾間カ^マカリニ而御座候

千福村

太兵衛

一 居村^ノ愛鷹山下野草蒔場へ^モ里、薪取場へ^モ式里拾町御座候、田地之用水ハ木瀬川井カ^ハリ御座候

一 同村古城東西百八拾間、南北へ^モ百式拾間、東西南三方

ハ川、北ハからほり、大手の口ハ南からほり^モ壱重御座候、是ハ小田原氏^直猶様之^直衆松田入道の御取たてニ而御座候、其後七拾年以前ニ普明寺屋敷ニ罷成候者、子ノ

年^ノ御当代御 朱印御座候寺領拾三石式斗五升御座候

一 同村拾式社権現ノ宮、是ハ富士峯山伏衆五日之護摩之場、田方^モ壱石式斗 前々^ノ山伏免有

一 百姓林たて^モ式町横五拾間カ^マカリニ而御座候

葛山村

伝右衛門

一 居村^ノ愛鷹山下野草蒔場へ^モ三拾町御座候、薪取場へ^モ式里ニ而御座候、田地之用水ハ出水ニ而御座候

一 同村仙年寺ニ御当代之御 朱印御座候、寺領拾三石式

斗七升者丑ノ年^ノ御座候

一 同村古城ハ鎌倉之御代より甲州之しんけん様御代迄葛山殿と申御城代御座候、其後九拾年以前ニ落居致候、西北ハからほり^モ壱重、東ハからほり^モ二重、大手ハ南水

ほりニ而御座候

一 同村百姓林^総立五町横^モ壱町拾間御座候

御宿村

次左衛門

一 居村^ノ大野草蒔場へ^モ壱里御座候、愛鷹山薪取場へ^モ式里拾五町御座候、田地之用水木瀬川井カ^ハリニ而御座候

一 御林長百間横五拾間、但大和竹御座候、た^ハし^ハ二ヶ所

第1節 開削前の村々

一 同村百姓林長八拾間よこ五拾間かまかりにて御座候
上ヶ田村 五兵衛

一 居村々大野草蒔場へ式拾町、愛鷹山薪取場へ式里拾町
御座候、田地之用水ハ出水ニて御座候

一 同村百姓林長壹町よこ式拾間かまかりニ而御座候
金沢村 半兵衛

一 居村々大野草蒔場へ拾五町、愛鷹山薪取場へ式里八町
御座候、田地之用水ハ出水ニ而御座候

一 同村浅間之宮、是ハ富士峯山伏衆二夜三日之護摩之場、
田方壹石式斗前々山伏免御座候

一 同村百姓林長三町よこ五拾間かまかりニて御座候
慶安三年

寅ノ八月廿八日

(裾野市御宿 湯山匡秀氏所蔵)

六 (二六六〇) (二六六六)
万治三年ノ寛文六年 御宿村年貢米金皆濟目録、野

村彦大夫裏書

亥ノ御年貢米金皆濟目録

一米七拾三石式升四合 本途

内

五石七升八合 上野原

一米五石六斗式升四合 亥ノ改出シ

一米五斗九升者 山手役

米合七拾九石式斗三升六合

右者亥ノ年御年貢米金浮役御割付之通并口米共ニ無未進
相納、弘札を以御手代衆へ致勘定皆濟申所紛無御座候、
此外壹合壹錢相納不申候、出入無御座候、以上

万治三年

子ノ極月 御宿村

庄屋 半右衛門[㊦]

同 権兵衛[㊦]

野村彦太夫様

同 治左衛門 ㊦
組頭 甚右衛門 ㊦
上野原 七左衛門 ㊦

卯ノ極月

御宿村

寛文三年

相納、弘札を以御手代衆へ致勘定皆済申所紛無御座候、
此外壹合壹錢相納不申候、出入無御座候、以上

庄屋 半右衛門 ㊦

同 権兵衛 ㊦

同 治左衛門 ㊦

組頭 甚右衛門 ㊦

上野原 七左衛門 ㊦

^(裏書)
表書之米割付之辻并口米無未進相納目錄、手代改之上、
皆済状如此候、以上

野彦太夫 ㊦

寅之年御年貢米金皆済目錄

野村彦太夫様

一米六拾九石四斗式升七合

本途

内

四石七斗八升者

上野原

一米五石五斗六升六合

亥ノ改出シ

一米五斗九升者

山手役

米合七拾五石五斗八升三合

卯ノ御年貢米金皆済目錄

右者寅之年御年貢米金浮役御割付之通并口米共ニ無未進

一米七拾三石七斗八升者

本途

^(裏書)
表書之米割付之辻并口米無未進相納、目錄手代改之上、
皆済状如此ニ候、以上

野彦太夫 ㊦

内

四石壹斗八升三合

上野原

一米四石五斗七升七合

亥ノ改出シ

一米五斗九升者

山手役

米合七拾八石九斗四升七合

巳ノ御年貢米金皆済目録

右者卯之年御年貢米金浮役御割付之通并口米共ニ無未進

一米七拾五石九斗七升六合

本途

相納、払札を以御手代衆へ致勘定皆済申所紛無御座候、

内

此外壹合壹錢相納不申候、出入無御座候、以上

五石九斗七升五合

上野原

寛文四年

一米六石壹斗五升七合

亥ノ改出シ

辰ノ極月

御宿村

一米五斗九升ハ

山手役

庄屋

半右衛門[㊦]

米合八拾式石七斗式升三合

同

権兵衛[㊦]

右者巳之年御年貢米金浮役御割付之通并口米共ニ無未進

同

治左右衛門[㊦]

相納、払札を以御手代衆へ致勘定皆済申所紛無御座候、

組頭

甚右衛門[㊦]

此外壹合壹錢相納不申候、出入無御座候、以上

上野原

七左衛門[㊦]

寛文六年

野村彦太夫様

午ノ極月

御宿村

庄屋

半右衛門[㊦]

同 権兵衛印

同 治左衛門印

組頭 甚右衛門印

上野原 七左衛門印

野村彦太夫様

〔表書〕
表書之米割付之辻并口米無未進相納、目錄手代改之上、
皆済状如此ニ候、以上

野彦太夫印

(裾野市御宿 湯山匡秀氏所藏)

七 寛文二年九月 本宿村日損場開作年貢納入につき訴

書

御訴訟申上候事

一本宿村日損場ニ而御座候ニ付、六拾年以前之卯之年天
野三兵様御知行所之時、穴せき御普請之儀被仰付被下
候様ニと御訴訟申上候得者、御普請場御見分之上人足

被仰付被下候へ共、他所之人足穴せきへはいり堀申儀
不罷成候、殊ニ油たいまつ入用ニ御座候ニ付、所之人
足ニ而堀候へと被仰付、則せき免として水帳之内之荒
間拾石御引 御証文被下候得共、惡地之場ニ而御座候
得者近年まで作毛仕付不申候ニ付、穴セき破損致御普
請仕候時ハ、御見分之上人足御扶持方申請候、然共五
六年以前々右之荒間大方開作も仕付申候間、少つゝハ
年貢をも被仰付可被下候、為其御訴訟申上候、以上

寛文貳年

寅ノ九月

(長泉町 高田家旧藏 東京大学文学部現藏)

第二節 開削の発願

一 諸神法樂 毎日可勤者也

右精誠之意趣者、信心之旦那今度湖切貫新田企所願成就如意満足祈所、右為祈禱領新田之内ニ而式百石之所、永代 御神領可令奉納者也、仍願書如件

八 寛文三年二月二三日 箱根湖切貫新田開発につき友

野与右衛門他立願状

欽白立願状之事

寛文三年卯ノ二月十三日

重之

箱根大権現御本地供

相模坂間

東照大権現御本地供

宮崎市兵衛門

次宗

一文殊秘法 毎日可修行者也

江戸日本橋

一 弥勒秘法 毎日可修行者也

松村浄真

一 観音秘法 毎日可勤之者也

菅根山御宝前

别当快長敬白

一 葉師秘法 毎日可修之者也

(神奈川県箱根町 箱根神社所蔵)

一 不動護摩 毎月可修行者也

一 五所王子 毎日心経可誦誦也

第2節 開削の発願

九 (一六六六)
寛文六年四月一三日 箱根湖水堀抜願書幕府記録

寛文六丙午年四月十三日 裏書有之

箱根湖水堀抜願

御厨領新田請負之手形写

稲葉美濃守殿領分

新田成就之上拾五分一、未之分可被下候事

江戸浅草

友野与右衛門

江戸四ツ谷塩丁

長濱半 兵衛

江戸本船町

尼崎加右衛門

江戸靈岸島

浅井次郎兵衛

(太田南畝「竹橋余筆」)

一〇 (一六六六)
寛文六年四月一三日 箱根湖水堀貫につき友野与右

衛門他三名手形

差上申手形之事

一 今度箱根湖私共自分ノ以入目駿河戸山堀抜、御厨并ニ

沼津御領所へ水取新田・畑成田出来仕、日損田へ水掛

り可申由、御訴訟申上候処、望ノ通り被仰付難有奉存

候事

一 水海ノ水堀貫、巾六尺高サ三尺堀抜水通り可申候、若

湖ノ水落通候ハ、海尻ノ水閼留可申候間、湖ノ水ハ

少シモガサ減申間敷様奉存候事

一 絵図面ニ仕差上申候新田場、高七千石程モ有之ニ御座

候間、百姓仕付ノ儀其所其村ノ地主ニ為作可申候、尤

相談ノ上其掛リ分限ニ為開可申候間、余リ候分ハ私共

手作又ハ外ヨリ百姓呼仕付可申事

一 万事御仕置ノ儀ハ新田百姓・私共ニ至ル迄、古来ノ御

百姓並ニ如何様ニモ可被仰付候、少モ相背申間敷候事

第2節 開削の発願

- 一 私共開申候田地ハ、御水帳ニ私共名ヲ御附ケ可被下候、外ノ者共開候分ハ、其者ノ名ニ可被成御付候事
- 一 湖ノ水掛ケ出来仕候新田、私共開候分ハ七年ノ内作り取ニ可被成候、外ノ者共開候新田モ、地主相對ニテ七年ノ内上穀私共取可申候ニ付、五年ノ内開候分ハ其開発ノ年ヨリ七年、右ノ通り作り取ノ仰付可被下候、勿論五年過開候分ハ少モ構中間敷候事
- 一 下土狩村・竹原村・岩波村三ヶ所ノ日損田七十町余可有之御座候由、此分ハ水掛リ日損不仕候ハ、一ケ年上田一反ニ米一斗九升・中田一反ニ米一斗五升・下田一反ニ米一斗一升ツ、七年可被下候、但シ其年ハ出来ニ応シ右ノ通り可被下候事
- 一 畑ノ田ニ成候分ハ、上田一反ニ米二斗・中田一反ニ米一斗七升・下田一反ニ米一斗四升ツ、是又七年可被下候、尤日損仕一切御取上無之候ハ、私共取中間敷候事
- 一 畑ノ田ニ成候所、村々ヨリ下所ニテ出来悪敷候場ハ、

- 御立合被成御取付被仰付、右上地ノ畑ニ成田前積リ入割ニ上穀可被下候事
- 一 御水帳ニ無之所ハ新田高ニ御入可被下候、尤モ御水帳ニ付申候野畑新畑迄モ、畑成田ニ御入可被下候事
- 一 新田成就仕候ハ、十五分ノ一、末々迄御領地ノ内ハ可被下候事
- 一 堀抜入用ノ雜木入次第可被下候、商売木ニハ少シモ伐中間敷候、場所ノ儀ハ御差図次第何方ヨリモ伐可申候事
- 一 堀抜成就仕水掛リ候以後破損御座候ハ、七年ノ内私共方ヨリ修覆可仕候、其後ハ水掛リ中村ノ高割ニ仕候様ニ被仰付可被下候、沼津御領所ヨリ一同証文為仕差上可申事
- 右ノ通り少シモ違背仕間敷候、損金大分ニ御座候共一言ノ御歎不申上候、総テ何事ニ不依右定メノ外、以後訴訟ケ間敷儀一切仕間敷候、為後日手形差上申候、依テ如件

寛文六 丙午年四月十三日

友野与右衛門

江戸本舟町 尼崎嘉右衛門

長濱半兵衛

同 浅井次郎兵衛

尼崎嘉右衛門

『箱根湖逆川訴訟事件ニ関スル書類』

浅井次郎兵衛

静岡県芦湖水利組合所蔵

井上権兵衛殿

柳 吉左衛門殿

二 寛文六年五月一七日 箱根湖水掘抜につき友野与右

川北長左衛門殿

衛門他三名手形、野村彦太夫

駿州御厨御代官中

奥書

右、駿河戸山堀貫箱根湖ノ水、御厨領へ取り新田於出来

〔編纂者〕一沼津御領新田場書付被仰付候 名主 宮内左衛門

ハ、相定表書ノ通り相違有之間敷者也

差上申手形之事

寛文六丙午年四月十三日

真鍋伊兵衛

一 今度箱根湖、私共自分之以入目駿河戸山堀抜、御厨

稲葉酒之丞

領・沼津領江水を取、新田・畑成田出来仕、日損田へ

稲葉伊織

水懸可申由、御寄合江度々御訴訟申上候処、望之通被

田辺権太夫

仰付難有奉存候事

江戸浅草 友野与右衛門

一 湖之水堀抜、は、六尺・高サ三尺ニ仕水通可申候、若

江戸四ツ谷 長濱半兵衛

湖之水落過申候ハ、海尻之水せき留可申候之間、湖

水ハ少茂かさへり申間敷様ニ奉存候事

一 右之用水、沼津領之内水下之村々日損場へ、応其村々

ニ水懸させ可被成候、日損所用水場ニ成候にも、畠之

田ニ成候にも上穀取申間敷候、一切構申間敷候事

一 繪図仕指上申御蔵入之新田場、高千石程も可有御座候、

開百姓仕付候儀、私共名田ニ仕、居住致シ可申候間、

拙者共之分者手前ニ而開立可申候、新田場三分一之積

り、其所其時々の名主・百姓中にも、応分限開せ可申

候、我等共開候田地者、御水帳ニ私共之名を御付可被

下候、外之者共開候分者、其者之名可被成御付候、諸

事御支配方御差図次第ニ可仕候事

一 右之新田、来末ノ年々亥の年迄五ヶ年之内ニ開発可仕

候、来末之年々酉の年迄五ヶ年之間、作取ニ可被下

候、外之者新規ニ開候分者、来末ノ年々亥ノ年迄五年

之内、地主与相對ニ而、酉ノ歳迄拾五年之内、上穀私

共取可申候事

一 右之新田、来末之年々六年目子之年、御繩を可申請候、

其節迄ニ開不申候所者、何方之者にも御開せ可被成候、

来末ノ年々拾五年過拾六年目、戌ノ年々御年貢相納御

役動可申候事

一 御蔵入之分、上野原・どうかうぞうり新田、此跡百姓

衆罷出開候田地、又者居屋敷廻りかこひ置候分并三ヶ

村田畑少宛開置候処ニ、只今迄御改無之所にも拙者共

構申間敷候事

一 堀貫成就仕水懸候以後破損御座候者、七年之内者私共

方々修覆可仕候、其以後者水懸候村々田地之高割ニ仕

候様被仰付可被下候、御厨領も一同ニ証文致させ指

上可申候事

一 万事御仕置之儀者、新田百姓・私共ニ至迄、古来之御

百姓並ニ如何様にも可被仰付候、少茂相背申間敷候事

右之通、御請負申上候趣、少茂違背仕間敷候、縦損金大

分御座候共、一言之御歎不申上、惣而不依何事、右御定

之外を以後ニ訴訟ケ間敷儀、一切申上間敷候、為後日手

形如此ニ御座候、以上

友野与右衛門

寛文六丙午年五月十七日

長濱半兵衛

申付候、断ハ本文有之、以上

尼崎加右衛門

午ノ五月廿八日

岡豊 前

浅井次郎兵衛

妻彦右衛門

野村彦太夫殿

(裾野市御宿 湯山 博氏所蔵)

前書之通箱根水海堀抜、御厨領・沼津領御蔵入日損場之

用水ニ仕、其上新田仕立申度由、御公儀江度々御訴訟

申上候ニ付、御蔵入方ニ障無之哉と御尋ニ付、請負之者

相定ケ様ニ手形為致申候、右之水無相違參候へハ、日損

場本田之用水ニ罷成、新田も少者出来可仕候、御蔵入方

左右ヶ原之内新田場何之障も無御座、来未ノ年々酉ノ年

迄拾五ヶ年、御年貢御役御赦免、拾六年目戌ノ年ノ御年

貢御納所可申付候、御訴訟之者手前入用ニ而諸事御普請

仕立、七年之内者破損修覆迄可仕旨御請負致候間、被仰

付可然奉存候、以上

寛文六年午五月廿八日

野村彦太夫 在判

御勘定所

(表書) 表書之通何之障も無之由ニ候、弥遂穿儀於無相違者可被

三 寛文六年五月一七日

(二六六六)

箱根湖水堀抜につき、友野与

右衛門他三名手形、野村彦太

夫奥書

差上申手形之事

一 今般箱根湖、私共自分ノ以入目ヲ駿河戸山堀抜、御厨

領・沼津領へ水ヲ取、新田・畑成田出来仕、日損田へ

水掛ケ可申由、御寄合へ御訴訟申上候処、望ノ通り被

仰付難有奉存候事

一 湖水ノ堀抜、幅六尺・高サ三尺ニ仕水通シ可申候、若

湖ノ水落通申候ハ、海尻ノ水セキ留可申候間湖水ハ少

モカサヘリ申間敷様ニ奉存候事

一 右之用水、沼津領之内水下之村々日損場へ、応其村々

ニ水かけさせ可被成候、日損所用水場ニ成候にも、畑

之田ニ成候にも、上穀取申間敷候、一切構申間敷候事

一 絵図仕指上申候御蔵人之新田場、高千石程も可有御座

候、開百姓仕付候義私共名田ニ仕、居住いたし可申候

間、拙者共之分者手前ニ而開立可申候、新田場三分一

之積り、其所其村々名主・百姓中にも応分限開かせ可

申候、我等共^(開候)田^(開候)地者、御水帳ニ私共之名を御付可

被下候、外之者共開候分者、其者之名御付可被成候、

諸事御支配方御指図次第ニ可仕候事

一 右之新田、来未ノ年々亥ノ年迄五ヶ年之内開発可仕候、

未ノ年々酉ノ年迄五ヶ年之間作取ニ可被下候、外之

者新規ニ来未年々亥ノ年迄五ヶ年之内開候分、地主と

相對ニ而酉ノ年迄五ヶ年之内、上穀私共取可申候事

一 右之新田、来未ノ年々六年目子ノ年御繩を可申請候、

其節迄ニ開不申候所へ、何方之者ニも御開かせ可被成

候、来未ノ年々拾五年過拾六年目、戌ノ年々御年貢相

納御役動可申候事

一 御蔵入之分上野原とうかうそうり新田、此跡百姓衆罷

出開候田地、又ハ居屋敷廻りかこい置候分并三ヶ村々

田畑少宛開置候所、唯今迄御改無之所ニも拙者共構申

間敷候事

一 堀拔成就仕水かけ候以後破損御座候ハ、七年之内ハ

私共方々修覆可仕候、其以後者水かけ申候村々田地之

高割ニ仕候様ニ被仰付可被下候、三^(御題)くり屋領方も一同

ニ証文いたさせ指上ケ可申候事

一 万事御仕置之義者、新田百姓・私共ニ至迄、古来之御

百性並ニ如何様ニも可被仰付候、少も相背申間敷候事

右之通、御請負申上候趣少も違背仕間敷候、縦損金大分

御座候共、一言之御歎不申上、惣而不依何事ニ、右御定

之外を以後ニ訴訟ケ間敷義、一切申上間敷候、為後日手

形如此ニ御座候、以上

寛文六年五月十七日

淺草町

友野与右衛門^(印)

野村彦太夫様

四谷塩町
長濱半兵衛判
本船町
尼崎加右衛門判
靈岸嶋
浅井次郎兵衛判

表書之通何之障も無之由ニ候、弥被遂僉議於無相違者可
被申付候、断者本文有之、已上

午五月廿八日

岡豊 前判

妻彦右衛門判

野村彦太夫殿

(神奈川県箱根町 川井 清氏所蔵)

前書之通箱根湖堀抜、御厨領・沼津領御蔵入日損場之用水ニ仕り、其上新田仕立申度由、御公儀へ度々御訴訟申上候ニ付、御蔵入方ニ障無之哉と御尋ニ付、請負之者相定ケ様ニ手形為致申候、右之水無相違參候得者、日損場本田之用水ニ罷成、新田も少ハ出来可仕候、御蔵入之方そわか原之内新田場何之障も無御座候、来未之年々酉之年迄拾五ヶ年御年貢御役御赦免、拾六年目戌之年々御年貢御納所可申付候、御訴訟之者手前入用ニ而諸事御普請仕立、七年之内者破損修覆迄可仕旨御請負致候間、被

注、冒頭ニカ条は前欠のため『箱根湖逆川訴訟ニ関スル書類』により補足

一三 寛文六年七月一八日 箱根湖水掘抜につき発企人大

庭源之丞への指入証文

指入証文

仰付可然奉存候、以上

寛文六年

午五月廿八日

野村彦太夫判

御勘定所

一 今度箱根湖水ノ水駿河戸峠ヲ堀抜、深良村山中堀割御厨領へ水引、新田相開キ可申事、貴殿草分ケ御手引ニ付、私共自費ヲ以テ普請仕度、御公儀様始メ御代官様方へ願立、再度御見分ノ上、弥々今度御聞濟ニ相成、

水掛り村々儀モ相談行届、然ル上ハ来ル八月二十五日ヨリ相始申度、就テハ是迄貴殿百端御苦相掛ケ、地方不弁私共御差図相随ヒ御厚実ノ段、何共忝、此普請出来候上ハ、村々ヨリ私共へ上リ米ヲ以テ、年限中御恩謝トシテ、年々上米五石宛貴殿方へ相納申度候間御聞濟被下度、元ノ四名連印ヲ以テ証文差上置候、依テ如件

寛文六年七月十八日

江戸浅草

元ノ友野与右衛門 印

江戸四ツ谷

同 長濱半兵衛 印

江戸本舟町

同 尼崎嘉右衛門 印

同 所

同 浅井治郎兵衛 印

駿河国御厨深良村

御発起 大庭源之丞殿

〔箱根湖逆川訴訟事件ニ関スル書類〕

静岡県芦湖水利組合所蔵

第三節 開削工事の施行

二 寛文九年(一六六九)一〇月 下せき普請場目録

戌之春下せき御普請場之目録

一 長三拾間 横四尺 高三尺

せき石取付芝

一 長拾五間

溝芝土手

一 長貳百五拾間

溝さらい付芝

一 芝百駄

溝付芝

寛文九年

酉十月

(長泉町 高田家旧藏 東京大学文学部現藏)

三 寛文(一六七二)二年三月一七日 茶畑村新堀間数書上

指上申新堀間数之事

一七百三拾間

うち堀

内

四拾七間

やふ之内

百三拾間

古川

五百五拾三間

畑之内

右ハ麦塚境ヲ瀧頭まで横壱間半可仕候

一千百六間

中堀

内

百六拾三間

やふ之内

六百拾壱間

畑之内

三百三拾貳間

公文名村之内

内三拾間

いなり森之内

三百貳間

畑之内

右ハ麦塚境ヲ公文名村之内迄横貳間可仕候

一九百八間

大堀

内

三拾間

やふ之内

第3節 開削工事の施行

七拾六間

岩有之

八百貳間

畑之内

右ハ伊豆嶋田上ノ公文名村境迄横三間可仕候

寛文十一年

茶畑村

亥三月十七日

小山源兵衛様

(沼津市 柏木正男氏所蔵)

天 寛文一一年三月一九日 亥ノ年新川普請人足帳

(表紙)

寛文十一年	公文名村
平	□
亥ノ年新川普請人足帳	
三月十九日	茶畑 □

□

□ 出申候

一 三月廿 □ 瀧頭半兵衛出申候

一 四月朔日中尾助左衛門出申候

一 四月三日同組父左衛門出申候

一 四月六日同組与右衛門出申候

一 四月七日同組文右衛門出申候

亥ノ三月十九日川尻ノ堰原まで横三間之川

一 拾六人

神山○

一 式人 老入

岩波○

一 式拾六人

深良○

後六人

一 拾人 □ □ 人

久根○

一 拾人 老入

公文名○

一 式拾老入四人

茶畑○

一 七人

麦塚○

一 拾 □ □

伊豆嶋田○

第1章 用水の開削

一拾人	いつ嶋田	三月廿一日	同筋
一六人壱人	麦塚	百九拾七人	川嶋田
一拾六人五人	茶畑	一四人	今里
一拾人	公文名	一式人	下和田
一拾式人	久根	一式人	杉名沢
一式拾七人五人	深良	一三人	二子
一三人	岩波	一四人	沼田
一拾四人	神山	一六人	中山
三月廿日	同筋	一五人	くみ沢
百六拾九人	竹原○	一五人	萩原
一九人	下土狩○	一五人	石脇
一七人壱人	上土狩○	一五人	佐野
一拾七人	水窪○	一五人	竹原
一三	野○	一五人	下土狩
一三	脇○	一五人	上土狩
一三	右脇○	一五人	水窪

第1章 用水の開削

一人足拾四人	神山	一人足三人	西田中
内耆人名主		一人足三人	萩原
一人足貳人	岩波	一人足六人	中山
一人足四拾耆人	深良	一人足耆人	新橋
一人足拾耆人	久根	一人足貳人	下和田
内耆人名主		一人足貳人	今里
一人足三人	水窪	一人足三人	くみ沢
一人足七人	上土狩	一人九人	いつ嶋田
一人足四人	下土狩	百六十九人 百六拾三人 三月廿四日	
貳拾三人		七十貳人 九十五人	
一人足八人	竹原	一拾三人	神山
一人足四人	石脇	内耆人名主	
一人足六人	佐野	一貳人	岩波
一人足九人	茶畑	一三拾貳人	深良
一人足貳人	公文名	一拾耆人	久根
一人足四人	川島田	一七人	麦塚
一人足貳人	くみ沢	内耆人名主	

第3節 開削工事の施行

一七人
 一 式人 式人
 一 式拾九人
 一九人
 内老人名主
 一 拾四人
 一 四人
 一 四人
 一 式拾三人
 一 拾人
 一 式人
 一 式人
 一 式人
 一 六人
 一 五人
 一 四人
 一 五人
 一 式人
 一 四人

上土狩
 水窪
 下土狩
 竹原
 佐野
 石脇
 茶畑
 伊豆嶋田
 公文名
 下和田
 くゞ沢
 中畑
 板妻
 駒門
 今里
 萩蕪

一三人
 一三人
 一四人
 一五人
 一 式人
 一三人
 一五人
 一 拾壹人
 一 拾壹人
 三月廿五日
 一 拾人
 一 拾壹人
 内老人名主
 一 拾壹人
 内老人名主
 一 拾七人
 一 式拾七人

沼田
 中清水
 中山
 長塚
 杉名沢
 西田中
 川嶋田
 新橋
 萩原
 石脇
 佐野
 竹原
 下土狩

第1章 用水の開削

一七人	上土狩	一三人	印野
一拾壹人	久根	一拾壹人	萩原
一三十人 一拾六人	深良	一六人	中山
一三人	岩波	内巻人名主	
内巻人名主		一拾百拾人	
一拾貳人	神山	百八十四人	
一三人 一貳拾人 一貳人	茶畑	三月廿六日	
一九人	公文名	一拾三人	神山
一五人	いつ嶋田	内巻人名主	
一拾人	麦塚	一貳人	岩波
一三人	沼田	一三拾三人	深良
一貳人	今里	一拾壹人	久根
一五人	中畑	一九人	いつ嶋田
一八人	川嶋田	一七人	上土狩
一三人	くみ沢	一貳拾七人	下土狩
	西田中	一拾貳人 内巻人名主	佐野

第1章 用水の開削

	内巻人名主		
一五人	川嶋田	一 九人	竹原
一四人	西田中	百八十三人 九人	
一 式人	今里	式百拾五人	
一 壹人	萩蕪	三月廿八日	久根
一八人	くゞ沢	一拾壹人	石脇
一四人	萩原	一四人	佐野
一五人	中畑	一拾壹人	深良
一 式人	中清水	内巻人名主	下土狩
一三人	沼田	一三拾人壹人	竹原
一 式人	下和田	一 式拾七人	岩波
一三人	陣場	一 九人	神山
一三人	印野	一 式人	上土狩
一三人	杉名沢	一拾三人四人	いつ嶋田
一六人	麦塚	一七人	
三人	茶畑	一 九人	麦塚
一 式拾 式人	公文名	一六人	茶畑
一 式人		一 式人	
一 九人		一 式拾壹人	

第1章 用水の開削

一六人	中山	四月朔日	
一五人	中畑	一人足三人	岩波
一六人	くゞ沢	一人足九人	竹原
一五人	川嶋田	一人足六人	上土狩
一三人	西田中	一人足三拾六人	深良
一拾貳人	萩原	一人足拾人	佐野
一貳人	今里	内耆人名主	
一貳人	下和田	一人足四人	石脇
一貳人	萩蕪	一人足拾貳人	神山
一耆人	駒門	内耆人名主	
一耆人	沼田	一人足拾耆人	久根
一耆人	印野	一人足貳人	水窪
一耆人	杉名沢	一人足貳拾八人	下土狩
一耆人	陣場	四月朔日	
一耆人	板妻	一人	中山
百八十人		一人	川嶋田
六人		一人	杉名沢
貳百十貳人		一人	

第3節 開削工事の施行

一 四人	一 式人	一 拾人	一 式人	一 八人	一 式拾七人	一 九人	一 四人	一 九人	一 三人	一 九人	一 拾壹人	四月四日	百九十九人	二百三拾港人	五人	
						内壹人名主		内壹人名主								
川嶋田	杉名沢	久根	水窪	上土狩	下土狩	竹原	石脇	公文名	茶畑	佐野						
一 三人	一 八人	一 九人	一 式人	一 七人	四月五日	百五拾三人	一 式人	一 六人	一 式人	一 式人	一 三人	一 三人	一 三人	一 六人	一 四人	
茶畑	竹原	公文名	水窪	上土狩			萩原	下和田	中山	今里	中畑	板妻	駒門	中清水	くみ沢	西田中

第1章 用水の開削

一 式拾七人	下土狩	一九人	竹原
一 八人三人	久根	一八人	石脇
一 六人	中山	一五拾貳人	御厨
一 四人	川嶋田	一 式人	水窪
一 貳人	杉名沢	一 五人	上土狩
一 四人	西田中	一 式人	茶畑
一 六人	萩原	四月七日	
一 貳人	下和田	一 九人	竹原
一 五人	くみ沢	一 拾人	久根
一 五人	中畑	一 四人	石脇
ノ百老入		一 四人三人	上土狩
是迄堰原前也		一 五人四人	いつ嶋田
四月六日		一 式人	水窪
是かゆるき橋古川也		一 式拾老入六人	下土狩
一 三人	公文名	一 三人	沼田
一 拾人	久根	一 四人	大坂
一 式拾七文	下土狩	一 五人	中畑

第3節 開削工事の施行

一 拾壱人	萩原	一同式人	水窪
一 六人	川嶋田	一同四人	石脇
一 式人	杉名沢	一同九人	公文名
一 五人	陣場	一同拾壱人	久根
一 三人	西田中	一同式拾七人	下土狩
一 式人	下和田	一同三人	萩原
一 式人	今里	一同三人	中清水
一 四人	中山	一同五人	川嶋田
一 五人	長塚	一同式人	杉名沢
一 七人	くみ沢	一同三人	西田中
一 式人	同村	一同式人	今里
一 九人	公文名	一同四人	沼田
一 三人	茶畑	一同五人	中畑
ノ百四十壱人		一同式人	板妻
一 四月八日		一 拾人	くみ沢
一 人足九人	竹原	一 三人	駒門
一 同九人	いつ嶋田	一 八人	中山

第1章 用水の開削

一 九人	萩原	一 六人	くミ沢
一 式人	茶畑	一 耆人	中山
一 七人	上土狩	一 式人	茶畑
百三十九人		ノ 五十七人	
四月九日			
一 八人	いつ嶋田	ノ 式千三百四拾三人四月朔日まで	
内耆人名主		一 四拾八間	三月十九日
一 六人	上土狩	此人足百七拾人	三月廿日
一 九人	公文名	一 百三拾八間	
内耆人名主		此人足百九十七人	
一 拾 ^式 人	久根	一 三百八拾壺間	三月廿一日
内耆人名主		此人足式百四十九人	
一 五人	石脇	一 式百七十壺間	廿三日
一 式人	水窪	此人足百七拾人	
一 式人	川嶋田	一 百六拾五間	廿四日
一 三人	萩原	此人足式百十八人	
一 式人	今里	一 百九十四間	廿五日

第3節 開削工事の施行

此間敷式百十間 ノ千七百七十九間 一百九十七人 一式百拾人 一百六拾九人 一式百三拾五人 三拾零人	此百八十卷人 此百九十七人 ノ五百三十九人	廿七日ノ九日まで	廿九日	廿八日	廿七日	廿六日
四月朔日 四月二日 四月二日 四月三日						

一人足拾六人	亥ノ三月十九日ノ	神 山
一百五十人	四月四日	
一百廿七人	四月五日	
ノ八百七十四人	五日分	
一百四十七間	堰原口	
ノ千九百貳拾六間 (裏表紙)	四月五日	
一 拾九人御厨	(沼津市 柏木正男氏所蔵)	
寛文十一年三月二十九日	亥ノ年新川普請人足帳	

(表紙)

寛文十一年 伊右衛門

いつ嶋田

亥ノ年新川普請人足帳

公文名 伊右衛門
茶 畑平左衛門
三月十九日 右衛門
甚右衛門事

第1章 用水の開削

一人足七人	水窪	一人足式人	長塚
一人足拾七人	上土狩	一人足式人	下和田
内耆人名主	下土狩	一人足式人	今里
一人足九人	竹原	一人足三人	中清水
内耆人名主	石脇	一人足五人	陣場
一人足四人	佐野	一人足三人	萩原
内耆人名主	中山	一人足拾三人	沼田
一人足拾五人		一人足拾人	杉名沢
内耆人名主		式百四拾九人	中畑
一人足六人			
内耆人名主			
一人足三人	大坂	三月廿二日 雨ふり	
一人足六人	新橋		
一人足三人	印野	三月廿三日	
一人足三人	西田中	一人足拾四人	神山
一人足拾人	くみ沢	内耆人名主	

第1章 用水の開削

一人足七人	上土狩	一人足三人	沼田
一人足四人	水窪	一人足三人	中清水
一人足貳拾九人	下土狩	一人足四人	中山
一人足九人	竹原	一人足五人	長塚
内耆人名主		一人足貳人	杉名沢
一人足拾四人	佐野	一人足三人	西田中
一人足四人	石脇	一人足五人	川嶋田
一人足 ^{四人} 貳拾 ^{三人} 三人	茶畑	一人足五人	新橋
一人足耆人	いつ嶋田	一人足拾耆人	萩原
一人足 ^{貳人} 九 ^人 人	公文名	二百拾七人 式百四拾三人	
一人足 ^{貳人} 貳 ^人 人	下和田		
一人足六人	くみ沢	三月廿五日	
一人足五人	中畑	一人足四人	石脇
一人足四人	板妻	一人足拾耆人	佐野
一人足五人	駒門	内耆人名主	
一人足 ^{貳人} 貳 ^人 人	今里	一人足九人	竹原
一人足四人	萩蕪	内耆人名主	

第1章 用水の開削

一人足四人	石脇	一人足壹人	
一人足九人	竹原	百八十三人 貳百九人	水窪
内耆人名主			
一人足三人	駒門	三月廿七日	
一人足貳人	今里	一人足拾三人	神山
一人足五人	中畑	内耆人名主	
一人足八人	くみ沢	一人足壹人	岩波
一人足六人	川嶋田	一人足三拾貳人	深良
一人足四人	西田中	一人足拾壹人	久根
一人足三人	萩原	内耆人名主	
一人足貳人	下和田	一人足九人	いつ嶋田
一人足七人	萩原	一人足拾三人	佐野
一人足貳人	萩原	一人足四人	石脇
一人足四人	板妻	一人足貳拾七人	下土狩
一人足四人	大坂	一人足七人	上土狩
一人足三人	茶畑	一人足七人	中山
一人足九人	公文名	内耆人名主	

第1章 用水の開削

一人足三人	くミ沢	一人足三人	水窪
一人足三人	沼田	一人足三拾人	〇
一人足貳人	駒門	一人足貳人	岩波
一人足三人	陣場	一人足八人	神山
一人足五人	中畑	内耆人名主	久根
一人足拾人	萩原	一人足拾耆人	
一人足貳人	下和田	内耆人名主	
一人足貳人	今里	一人足貳拾七人	下土狩
一人足耆人	印野	一人足九人	竹原
一人足耆人	板妻	内耆人名主	
百七拾貳人 百九拾八人		一人足八人 貳拾七人	茶畑
三月廿九日		一人足九人 ^{貳人}	公文名
一人足七人	上土狩	一人足六人	中山
一人足拾耆人	佐野	一人足五人	中畑
内耆人名主		一人足六人	くミ沢
一人足四人	石脇	一人足五人	川嶋田

第1章 用水の開削

一人足拾壹人
 一人足貳人
 一人足四人
 一人足四人
 一人足六人
 一人足六人
 一人足三人
 一人足三人
 一人足貳人
 一人足貳人
 一人足五人
 一人足貳人
 一人足六人
 一人足貳人
 一人足拾五人
 一人足拾五人

久根
 杉名沢
 川嶋田
 西田中
 くみ沢
 中清水
 駒門
 板妻
 中畑
 今里
 中山
 下和田
 萩原
 御厨分
 やとい

一人足七人
 一人足貳人
 一人足九人
 一人足八人
 一人足三人
 一人足貳拾七人
 一人足拾壹人
 一人足六人
 内巻人名主
 一人足四人
 一人足貳人
 一人足四人
 一人足六人
 一人足貳人
 一人足五人
 一人足五人
 一人足五人
 百壹人

上土狩
 水窪
 公文名
 竹原
 茶畑
 下土狩
 久根
 中山
 川嶋田
 杉名沢
 西田中
 萩原
 下和田
 くみ沢
 中畑

四月五日

第3節 開削工事の施行

一人足九人	一人足貳人	一人足五人	一人足貳人	一人足貳人	一人足拾貳人	一人足五人	一人足六人	一人足貳人	一人足五人	一人足貳人	一人足八人	一人足九人	一人足貳拾七人	一人足拾人	一人足三人	四月六日
くミ沢	駒門	陣場	板妻	萩蕪	萩原	中畑	川嶋田	茶畑	上土狩	水窪	石脇	竹原	下土狩	久根	公文名	
一人足五人	一人足四人	一人足三人	一人足貳拾七人	一人足貳人	一人足九人	一人足七人	一人足四人	一人足拾人	一人足九人	四月七日		□□拾八人	一人足壹人	一人足四人	一人足貳人	一人足貳人
中畑	大坂	沼田	下土狩	水窪	いつ嶋田	上土狩	石脇	久根	竹原				中清水	今里	下和田	杉名沢

第3節 開削工事の施行

一人足八人
 一人足九人
 一人足式人
 一人足七人
 百三拾九人
 四月九日
 一人足 五十三人
 一人足六人
 一人足九人
 一人足拾壹人
 一人足五人
 一人足式人
 一人足式人
 一人足三人
 一人足式人
 一人足六人

中山
 萩原
 茶畑
 上土狩
 中山
 萩原
 茶畑
 上土狩
 いつ嶋田
 上土狩
 公文名
 久根
 石脇
 水窪
 川嶋田
 萩原
 今里
 くみ沢

一人足壹人
 一人足式人
 百式人
 五拾七人
 惣 三千四百三拾四人
 内
 式百貳拾八人 茶畑村内堰
 残三千貳百六人 本川筋
 寛文十一年
 亥ノ四月十一日

中山
 茶畑
 茶畑村
 甚右衛門事
 甚右衛門
 公文名村
 平左衛門
 いつ嶋田村
 伊右衛門
 (沼津市 柏木正男氏所蔵)

六 寛文二一年四月二五日 茶畑村新川間数人足高之帳

(表紙)

新川間数人足高之帳

茶畑村

仁右衛門

千六百拾五間

深サ三尺

五拾八間

土手敷貳間高三尺五寸

八間

土手敷四間高五尺五寸

百三拾貳間

深サ四尺

右ハ横三間ノ川

此分ケ

箱根堀貫水通シ申新川間数ゆるき橋ヲ堰原まで川筋之

三月十九日

一五十間
一四拾八間

ふかさ三尺

事

一間数貳千貳百五拾貳間

但シ横三間

此人足百七拾人

此分

三月廿日

三百貳拾七間

緩木橋ヲ川尻迄之古川

一百三拾六間

深サ貳尺

内 貳拾五間

深サ五尺

此人足百九拾七人

残テ千九百貳拾五間

川尻ヲ堰原まで新川

一三百八拾壹間

深サ貳尺

内

百拾貳間

深サ三尺

三月廿三日

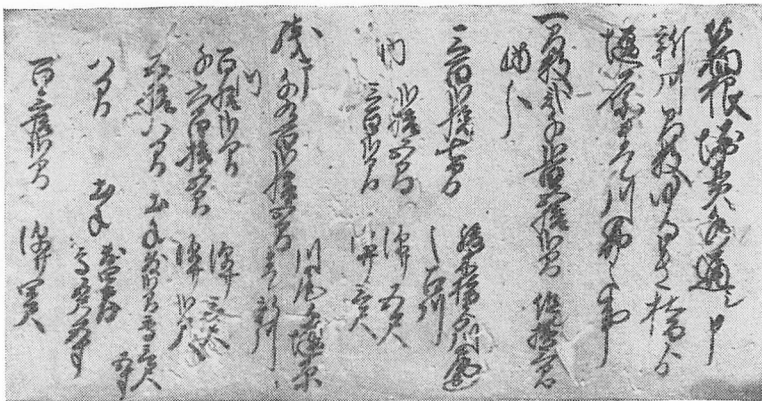
此人足貳百四拾九人

第3節 開削工事の施行

一 式百七拾壹間	深サ式尺	此人足百七拾六人	三月廿四日
一 百六拾五間	深サ式尺	此人足百七拾七人	三月廿五日
一 百九拾四間	深サ式尺	此人足百七拾 ^(六) □人	三月廿六日
一 三百七拾貳間	深サ式尺	此人足百八十三人	三月廿七日
一 九拾六間	深サ式尺	此人足百八十三人	三月廿八日
一 五十八間	三十間 土手敷式間 高□尺		一 五十八間
一 式百七拾貳人	深サ式尺	此人足百七拾六人	三月廿九日
一 式十八間 三拾七間	深サ三尺	此人足百八十人	四月朔日
一 八間	土手敷四間 高五尺五寸	此人足百九十六人	四月二日
一 六十五間 五拾五間 七十間	深サ四尺	此人足百六十七人	四月三日
一 三十五間 三拾五間 五十間	深サ四尺	此人足百六十六人	四月四日
一 三拾貳間	深サ四尺		

第1章 用水の開削

此人足百五十三人	四月五日	一六十式間	此人足百零六人	四月六日	一五十式間 一五十間	此人足百十八人	四月七日	一百式間	此人足百四十卷人	四月八日	一百間	此人足百三十九人	四月九日	一百間	此人足五十七人
		深サ□尺			深サ五尺			深サ三尺		深サ三尺			深サ三尺		



新川間数人足高之帳(部分)

ノ間数貳千貳百五十貳間

此人足三千八十四人

ノ道作り申間数九拾間

岩波村分

ノせき十せき

寛文十一年

亥ノ四月廿五日

(沼津市 柏木正男氏所藏)

(沼津市 柏木正男氏所藏)

一九 (一六七) (寛文一一年) 大堰等間数書上

(端裏書) 「岩波堰之覚」

堀間数之覚

一大堰ほり間数 百拾八間

一中沢堰ほり間数 四拾五間

一大セキ 壱セキ 一中沢セキ 壱セキ

一大中ぜセキ 壱せき 一中せせき 壱セキ

一といたセキ 壱せき 一下ノ田せき 壱セキ

一こにめセキ 壱セキ 一のみ水せき 壱セキ

ノほり百六拾三間

第3節 開削工事の施行

第四節 元締衆と発企人

違乱申間敷候、田地用水之儀万事ニ付論仕間敷候、万事各之御指図之上ハ、異儀申間敷候、但シ幾年小作仕候共此証文之趣相違仕間敷候、為後日仍如件
寛文三年壬寅二月一日

相模国大住郡公所村

三〇 寛文二年二月一日 宮崎市兵衛武蔵国吉田新田内新

田地小作手形

預申新田地小作手形之事

一名々新田之内、高合式拾町六反六セ也、此内五町壹反壹セハ北四つ目、六町式反ハ南四つめ、九町六反ハ南五つめ也、当寅年ノ預リ小作仕候、随分精出し作仕付可申候、作得之儀ハ年毎ニ檢見ヲ以御取可被成候、急度可遣申候、若作徳遅々致候ハ、何ニ而成共相当候程御押へ取可被成候、其上作仕付他所參候か、欠落致候ハ、名々新田之儀ニ候間、作付之者不殘御取可被成候、少も異儀申間敷候、若又田地無調法仕不作仕候ハ、重而作場御かい候共、又ハ御取上ケ候共、少毛

宮崎 市 兵 衛印
根御屋村住人 次 兵 衛印

野毛 村 伊 兵 衛印

(石野英『武相叢書 横浜吉田新田の研究』

「吉田新田関係文書記録」

三 寛文一〇年 長濱半兵衛江戸浅草田町屋敷買取記録

田 町

(屋敷) 一同 表間口廿三間裏五拾間 都筑又兵衛

(貼紙) 「長濱半兵衛与申町人戌年求置候、卯ノ閏四月御老中江

申上、御帳張紙被成相济」
(寛文一〇年力) (延宝三年)

(国立国会図書館旧幕引継文書)

〔浅草観音領門前町武士屋敷之覚〕

三 延宝二年八月一日 友野与右衛門武蔵国吉田新田内

田地永代売渡証文

永代売渡シ申新田地之事

一 武州久良岐郡金沢領吉田新田之内ニ、我等持分之新田
壹町貳反御座候、此田地代金貳拾五両ニ永代売渡シ申
所実正也、此田地ニ付諸親類者不及申横合も少もかま
い無御座候、若違乱申者有之候ハ、我等罷出急度埒
明可遣候、為後日沽券状、仍如件

売主

友野与右衛門[㊦]

延宝貳年

証人

寅八月朔日

同 佐兵衛[㊦]

同 母

吉田勘兵衛殿

〔石野瑛『武相叢書 横浜吉田新田の研究』〕

〔吉田新田関係文書記録〕

三 (延宝三年) 七月一日 本宿村箱根堀抜上穀米手形

相渡可被申上穀米之事

米合四拾六表[㊦]壹斗七合 但三斗七升入

右是ハ箱根堀抜上穀米寅之年分也、今日中堀抜衆へ相渡
可被申候、遅々申間敷候、此手形を以重而勘定可有之候、
念を入相渡可申候、以上

卯七月朔日

柳下源八[㊦]

藤田長右衛門[㊦]

本宿村

庄屋

百姓中

(長泉町 高田家旧蔵 東京大学文学部現蔵)

二 延宝四年五月一八日 本宿村箱根掘抜上穀米手形

相渡可申箱根掘抜上穀米之事

一米四拾六表壹斗七合 但三斗七升入

右ハ去卯年分箱根掘抜日損田上穀米、堀抜本ノ衆ヘ明十日ニ相渡し可被申候、上穀米定之通り年々出し仕舞候者、重而此手形此方へ返し可被申候、以上

延宝四年

藤田八郎右衛門

辰ノ五月十八日

柳下源八郎

本宿村

名主中

(長泉町 高田家旧蔵 東京大学文学部現蔵)

三 延宝五年四月二三日 本宿村箱根掘抜上穀米手形

覚

一米四拾六表壹升九合

本宿村

但三斗七升入

右者辰之年分箱根掘抜上穀米、本ノ衆ヘ明廿四日ニ相渡し可被申候、不及申ニ候得共升目等、不同無之様ニ念ヲ

入相渡し、請取手形取置可被申候、上穀米定之通り年々出し仕廻候ハ、此手形重而此方へ返し可被申候、以上

延宝五年

柳源八郎

巳四月廿三日

右名主中

(長泉町 高田家旧蔵 東京大学文学部現蔵)

三 延宝五年四月 「上土狩村惣ケ原檢地帳」箱根掘抜

元締名請地書上

表紙

延宝五年丁巳年四月

駿河国 駿河郡 上土狩之内惣ケ原田畑檢地帳
小泉庄

(中略)

第4節 元締衆と発企人

同 中烟	同 中烟	屋敷 中烟	同 下烟	同 下烟	同 下烟	同 下烟	同 下烟	同 下烟	同 下烟	道 下烟	三 下烟
六五 間間	九八 間間	七拾 間間	拾四 間間	五拾 間間	八拾 間間	六五 間間	拾四 間間	拾三 間間	八拾 三間	五拾 四間	五拾 四間
式畝 歩	式畝 拾式歩	式畝 拾七歩	式畝 拾式歩	式畝 歩	三畝 六歩	式畝 歩	三畝 拾四歩	四畝 式拾歩	三畝 拾四歩	式畝 拾歩	六右 衛門
徳 兵衛	善 兵衛	甚 五兵衛	掘 貫元々作	次 郎兵衛	掘 貫元々作	次 郎兵衛	三 郎兵衛	三 郎兵衛	三 郎兵衛	六右 衛門	

(長泉町 米山家文書)

三七 延宝六年七月一日 本宿村箱根掘貫上穀米手形

覚

一米四拾六表壹升九合

本宿村

但三斗七升入

右者巳之年分箱根堀抜上穀米、元々方へ明十二日相渡し

可被申候、不及申ニ候得共升目不同無之、繩俵こしらへ念を入相渡し、請取手形取置可被申候、上穀米定之通り年々出し仕廻候ハ、此手形重而此方へ返し可被申候、右書付之米盆前ニ候間、早々無油断急度出し可被申候、以上

延宝六年

柳 源 八印

午七月十一日

右庄屋中

三六 延宝七年八月二〇日 本宿村箱根掘抜上穀米手形

覚

一米四拾六表壹斗七合

本宿村

但三斗七升入

右者午之年分箱根堀抜上穀米、元々方へ明日相渡し可被申候、不及申ニ候得共升目不同無之、繩俵こしらへ念を入相渡し、請取手形取置可被申候、上穀米定之通年々出し

仕廻候ハ、此手形重而此方へ返し可被申候、只今米直
段能時分柄申候間、少しも無遅々日限之通、急度出し可
被申候、以上

延宝七年

柳 源 八[㊦]

未八月廿日

右庄屋中

(長泉町 高田家旧蔵 東京大学文学部現蔵)

三 延宝七年八月 江戸町人橋本山友他三名請負金返済

約束証文

相渡シ申証文之事

一 森田町之棚、此度相改申帳面之通、元金九拾兩無秩御
座候、山友遣度と申候共、本金之内遣せ申間敷候、来
二月廿日以前ニ九拾兩之金子、彦太夫様江指上ケ可申
候、少も滞申間敷候

一 借し金手形相改候、金五拾兩かし方御座候、銘々小帳
ニ付ケ出し渡し申候、当極月廿日以前ニ四拾八兩取

立、彦太夫様へ指上ケ可申候、尤極月前ニ相済候ハ
、早々指上ケ可申候、山友手前ニ金子弁々と預ケ置
申間敷候、金子都合百三拾八兩年内々来二月廿日以前
ニ指上ケ可申候

一 三文字屋借し申金子取次第、彦太夫様御手代衆へ御
披露仕、御下知次第ニ可致候、無左候而金子我かま、
ニ仕間敷候

右之通百三拾八兩之金子、我等共請負申候上ハ、年内々
来二月廿日以前迄ニ指上ケ可申候、其内之証文ニ貴殿証
人之判形被成候、縦滞儀御座候而も、忝文も其方へ掛ケ
申間敷候、我等共身体引つふし弁可申候、借方并棚昨今
相改申候へハ、右之金子儘ニ御座候間、少も御如在申間
敷候、自然相違之儀於申ニハ、此証文 御公儀様江被仰
上、我等共越度ニ可被成、何様之為曲事共一言之申分申
間敷候、為其以上

延宝七年

橋本山 友[㊦]

未八月

同 三郎右衛門[㊦]

同 嘉右衛門^印

須崎源右衛門^印

富沢村

勘兵衛殿

(裾野市富沢 渡辺武彦氏所藏)

三〇 延宝八年九月二十六日 本宿村箱根堀抜上穀米手形

覚

一米四拾六表壹斗七合

本宿村

但三斗七升入

右者未之年分箱根堀抜上穀米、元メ方へ明日相渡シ可被申候、不及申ニ候得共升目不同無之、繩俵拵念を入相渡シ、請取手形取置可被申候、年々遣シ候小手形重而本手形ニ引替可申候、只今直段能時分米払申度由、元メ之者申候間、無遅々日限之通り急度出し可被申候、已上

延宝八年

柳源八^印

申ノ九月廿六日

右庄屋中

(長泉町 高田家旧藏 東京大学文学部現藏)

三二 延宝八年二月晦日 深良村名主源之丞等証人田畑

地替証文

田畑地替手形^(証文)之^(事)

一 上原清右衛門屋敷上畑五畝拾歩・中畑壹反三畝壹歩・下畑壹反式畝式拾壹歩・屋敷式拾四歩、四口合三反壹畝式拾六歩之所地付藪共不殘、其上金子壹兩壹分爲上金と相添、西福寺分西原ニ而中田壹反八畝式拾三歩・下田式畝拾八歩・下々田壹畝拾歩、三口合式反式畝式拾壹歩之所請取、永代ニ地替仕所実正ニ御座候、此田畑之儀西福寺ニ借金御座候ニ付、西安寺様並且那中惣^(想)談ニ而地替仕申上ハ、我等儀ハ不及申ニたれ人成共、横合方違乱申者御座有間敷候、たとへ御国替又ハ何様新御法度入来候共、此田畑之儀者少も其引負申間敷候、爲後日以証人手形、仍如件

延宝八年

庚申ノ十二月晦日 深良村

主 助左衛門^印

証人 太兵衛^印

同 理兵衛^印

同 上原太左衛門^印

同 同村藤右衛門^印

同 同村伊右衛門^印

同 西安寺^印

名主 源之丞^印

西福寺様

(裾野市深良 志村守雄氏所蔵)

三 (一六八三) 天和三年四月二二日 江戸町人浅井佐次右衛門等金

子預り証文

預り申金子之事

金合百拾両者

江戸判也

六拾四両者 駿州惣ヶ原ニ而已之御年貢金預り遣申候

内 四拾六両者 沼津領辰之御年貢浅草御藏御撰米金

(翻印) 一右之金子之義、沼津領辰之御年貢御撰米出申候、其代

米午之十二月浅草御藏納申所ニ又候哉御撰米出申候、

納才料入札ニ而売申金子、納宿山友預り居申候間、才

料ニも無断理不尽ニ我等共分ケ取申候、未之正月十五

日過ニ其方詮義被成候間、箱根本メ共四人ニ而不沙汰

ニ分ケ取遣申候由申候へハ、其方立腹被申御訴訟可被

成候と被仰候間、達而詫申候、只今被仰上候得者我等

共子共迄御仕置ニ罷成候間、近比非分仕候御助置可被

下候、御上納之時少も滞不申、金子相返シ可申段色々

歎申候故、御披露御延シ候ニ付命助罷有候、殊ニ此金

子其方大分損金立申候間、以御慈悲御延金ニ罷成候

間、御上納之年数迄御待可被下候と、様々申□偽り申

候

(翻印) 一去戌之年御上納之年数ニ候間、金子相返シ候へ由被仰

候間、百拾両相返シ可申段、浅井佐次右衛門請負、中

間々神文手形佐次右衛門方へ取、須崎源右衛門証人ニ

而其方江手形仕候処ニ、佐次右衛門又々偽り金子相返

シ不申、亥之春中可相返段、誓言状ニ而申候間、今度

其方御下り候金子又々調兼偽り申候間、御訴訟可被成

由被仰候、左候へハ我等共御仕置請迷惑仕候間色々歎

申候

一(割印)余り我等共難儀ニ存、佐次右衛門憐高田慶琢老頼入申

候間、色々御肝煎被遊、当九月迄慶琢老御影ニ而御延

被下候、当九月廿日以前ニ急度相返シ可申候、慶琢老

堅御究被成候間、少も滞申間敷候、若滞申候ハ、我等

共親類・縁者・子共(供)御掛可被成候、大切之御年貢金

非分仕誤申候百拾兩九月早束相返し可申候、若偽ニ申

候ハ、越度ニ罷成可申候、証人并多賀井長左衛門立

合相調出可申候、早々埒明金子調出可申候、跡々色々

語偽り申、路金も大分ニ入させ申候、慶琢老御究候上

ハ偽り申間敷候、若難渋申候ハ、盗賊ニ可被仰候、

一言申分ケ無御座候、為後日証人を立手形仍如件

(割印)

天和三年癸亥四月廿二日

預り主 佐次右衛門印
同 伝 三 郎 印

証人 源右衛門印

同 又右衛門印

同 与右衛門印

同 山 友 印

同 三郎右衛門

勘兵衛殿

(裾野市富沢 渡辺武彦氏所蔵)

三 (二六八三) 天和三年四月二二日 江戸町人浅井佐次右衛門等金

子借用につき起請文

起請文

一 兩御訴訟拝借無油断精出し可申候、於相調申ニハ金子

調申、翌日証文之通駿州富沢迄源右衛門持参可申候、

少も如在申間敷候、此外何金子ニ而も中間之内誰成共

金子調申候ハ、早々源右衛門持参可申候、少も相違

申間敷候、若金子之儀ハ・九月迄も相延申候ハ、証

文之通一家子共(供)まてニ御掛り金子御取可被成候、少も

一家子共異儀申させ間敷候

一刀之儀能候而金子取申候ハ、翌日其方へ差越可申候、

少も相違申間敷候、於此金子此上ニハ御訴訟杯ニハ仕

間敷候

右之條々証文之通違背申候ハ、

梵天大釈四大天王、別而伊豆・箱根・三嶋之大明神并妙

祇山(義)、其外日本之大小之以神祇、右之段々相背申間鋪候、

若於相背者自分之儀ハ不及申妻子迄、神罰名罰蒙永しつ

ミ可申候、仍起請文如件

天和三年亥ノ四月廿二日

佐次右衛門 書判

源右衛門 書判

与右衛門 書判

勘兵衛殿

山 友 書判

(裾野市富沢 渡辺武彦氏所藏)

三云 (二六八三) 天和三年二月一日 江戸町人浅井佐次右衛門等

金子返濟起請文

起請文之事

一梵天帝釈四天王、日本国大小之神儀(祇)、別而伊豆・箱

根・三嶋大明神・明儀山諸神おろし申候

一百式拾七両式分金子此度之延々御訴訟相叶申候か、又

郡内御訴訟相叶申候か、若不罷成候ハ、来ル正月相調

急度濟シ可申候、我々自分之借金も証文之通ニ急度相

濟シ可申候、此度偽り申候ハ、右之起請文之御罰当

子共子祖迄、此世ハ不及申未来迄永しつみ可申候、是

非金子濟可申候、正月までニ相濟可申候

一来ル廿二・三日ニハ何之道ニも御左書(つ)可申候、

以上

天和三年

須崎源右衛門 印判

亥ノ極月十四日

浅井佐次右衛門 印判

渡辺勘兵衛殿

(裾野市富沢 渡辺武彦氏所蔵)

三
元禄二年 江戸町人浅井佐次右衛門等沼津領年貢代

金不正使用につき富沢村勘兵衛訴状

乍恐書付を以奉願候

小長谷勘左衛門御代官所

駿河国富沢村

上納金出入

武州江戸霊岸嶋町

相手 佐次右衛門

伝 三郎

山 友

一 先年野村彦太夫様御支配之節、駿州沼津領辰之御年貢

撰出シ不納米、私御請負仕相納候、不足代金百四拾七

両疋分未進仕候、依之去冬急度上納仕候様ニ被 仰付、

右之内七拾兩旧冬返納、残七拾兩余ハ、来ル五月中ニ

上納仕筈ニ御請負申上候事

一 右撰出シ米、買納ニ仕筈ニ而、去ル午之年私江戸江罷

下り、方々代米承立候処ニ、其節上米払底ニ而、御蔵

納ニ仕相応之米無御座候ニ付、上方船参次第御米調、

御蔵江相納くれ候様ニと浅草納宿橋本山友と申者ニ金

子百拾兩預ケ置、在所へ罷歸候、然所ニ其後否之儀不

申越候ニ付、無心元存、又翌年末ノ正月江戸江罷下り

様子承候処ニ、右之金子納宿山友并佐次右衛門・伝三

郎と申者、自分入用ニ遣候由申ニ付驚入、早速御訴訟

可申上旨申候所ニ、御 公儀様江申上候儀延引仕くれ

候様ニと、右之者共達而詫言仕、金子之儀ハ急度返弁

可申旨申ニ付、証文仕らせ度々内証ニ而催促仕候得共、

未返し不申迷惑仕候、去冬右不納米御詮儀之節、此段

御訴訟可申上と奉存候得共、辰之年撰出米私御請仕、

其上段々年数相延候ニ付、御吟味之趣至極仕、拙者持

来候田地・居屋敷等、悉質物ニ入又ハ年季売ニ仕、右

之通金子七拾兩旧冬上納仕候、相残七拾兩余之金子、

来ル五月上納可仕手立無御座候間、右佐次右衛門・伝三郎・山友被召出御詮儀之上、預り置候金子相返し候様ニ被仰付被下候様ニ奉願候、委細之儀ハ御尋之上、口上ニ可申上候、以上

元禄式巳年

駿州富沢村

勘兵衛

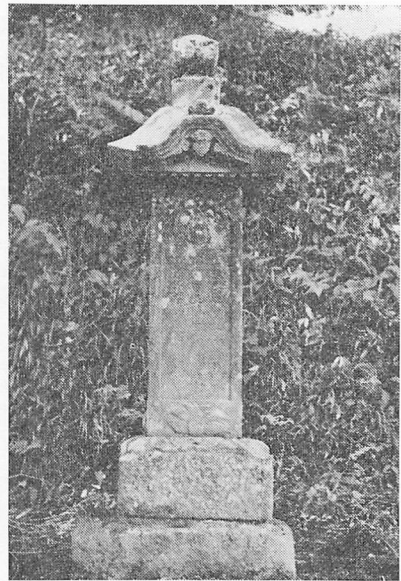
御奉行様

(裾野市富沢 渡辺武彦氏所蔵)

三 元禄一六年三月八日 大庭源之丞墓碑銘

(正面)

○	任王一運	上坐	覚
	一性円通一切性		
月林妙珂	大姉		靈



(右側面)

一切水月一月撰

(左側面)

一法徧含一切法

(裏面)

元祿十六年
一普現一切水
元祿十五年

未ノ三月八日
孝子施主
午ノ二月九日

(裾野市深良 大庭重一家墓地)

第五節 開削の記録

三 寛文五年(一六六五) 深良村箱根湖水掘抜諸色覚

一 寛文五年巳年、箱根湖水掘抜、御厨并沼津御領所へ水取、新田・畑成田・日損田へ水欠ケ可申由、江戸町人友野与右衛門・長浜半兵衛・尼崎賀右衛門・浅井次郎兵衛御願申上候処御取上、翌年丙午年四月十三日御証文井上権兵衛殿・柳吉左衛門殿・川北長左衛門殿・駿州御厨御代官□ □ 当所ニ而指上申候、□ □ 駿河□ □ 御厨領取之新田於出来相定表書之通相違有間敷者也

寛文六丙午年四月十三日

真鍋伊兵衛
稲葉酒之允

稲葉伊織

田辺権太夫

ハすとあり。当時友野與右衛門は江戸浅草にありて僧上の指揮に随ひ夫々願之趣きを運び、此間友野與右衛門之困苦艱難一と方ならず。快長も俱に共に尽す事筆記に為す能はず。翌年十月に至り一度管根に歸へりし所(ついで)而管根にては申伝へる、又僧上及友野與右衛門は、御公儀之手に掛り、今ハ獄屋に在りとの評判とりくなり。

(駿河国駿東郡疎水工事咄控)

神奈川県箱根町 箱根神社所蔵)

江戸浅草

友野与右衛門殿

江戸四谷

長浜半兵衛殿

江戸本舟町

尼崎加右衛門殿

同所

浅井次郎兵衛殿

大庭源之丞殿

右之通り御証文指上、御書付御載仕、御願相済申候、

御証文ハ別紙ニ有之候

一 寛文六^丙午年五月十七日、湖水堀抜請負之者共々野村彦

太夫様右御証文之通指上申候、彦太夫様御添書被遊、

同月廿八日御勘定所指上申候

表書之通り何之障も無之候、弥遂吟味、於相違者可被

申付候、断ハ本文有之候、以上

午五月廿八日

岡 豊 前

妻彦右衛門

野村彦太夫殿

一 寛文六年午ノ八月、箱根堀抜西ノ口堀初メ、東八十一

月堀初、抜申候ハ寛文拾年戌ノ二月廿五日、水出候ハ

同四月廿五日

一 穴口六尺四方、水門ハ海端ヘ拾間

一 水門ハ四ツ留迄四十六間

一 あな之内七百三拾八間

一 水門、但シ三間水出分八尺八寸

一 海端ハ新川落合迄壱里廿式丁十六間

一 新川落合ハ古川迄拾式丁

内百拾式間 神山村分

六百八間 ふから村分

一 海尻堰留拾式間半

一間数七百三拾八間堀貫

内 百八拾四間ハ 箱根分

五百五拾四間ハ 深良村分

右ハ元録^(録)拾壹歳寅ノ八月十九日、江戸御屋敷指上申候、

但シ御国絵図ニ付合印仕候、亥年上ル

御奉行様ハ

大田^(天)撰津守様

井井^(伊)兵部少輔様

一 北南千六百四拾九間 深良村

丁直シ式拾七丁廿九間

一 西東七百拾間

丁直シ拾四丁四拾四間

一 式千三百五拾三間 久根村境ヲ新川土手長四郎屋敷境迄

迄

一 式百七拾式間 久根村之内さいの神戸ヲ深良村境迄

一 千四百五拾式間 新川落合ヲ久根村境迄

内 三百四拾四間

石脇村分

千零八間

深良村分

一 式千四百拾五間、西四つ留ヲ須釜新川口迄

此法壹里四丁拾五間、元禄拾壹戌寅ノ年九月廿一日改、

御国絵図御用ニ付新田伊左衛門与四右衛門兩人ニ而

一 寛文拾壹年亥年満水仕、須釜向田ニ而新土手押切田畑

砂入川掛ケ仕候処、元メ方ニ而砂取川掛修覆土手普請

仕候

一 湖水之儀、毎年苗代水ヲ段々ニ出し、水留時分ハ八月

彼岸前後海面ニくい木シからヲかき、其下ニ土俵ニ而

水もり不申候様ニ、元メ支配之内ハ卯年迄ハ仕候

一 延宝七年未ノ年ヲ元メ支配放、御地頭様ヲ被仰付、深

良村源之丞・富沢村勤兵衛水配仕、海面ヲ木瀬川落合

迄諸色普請触役仕候ニ付、翌年堰下村々ノ反別^(下)守付書

付、兩人方へ受取、惣高六千三拾石合御座候事

(元文五年「箱根湖水諸色覚」)

裾野市深良 志村守雄氏所蔵)

三^(一六六六) 寛文六年七月二日 御宿村安右衛門箱根湖水掘抜

元締の覚

(宝永五年四月)

四日 庚戌 雨天 半右衛門殿前地ニ居申候箱根湖水番

仕候甚左衛門、是ハ箱根湖水掘抜之時分かせぎニ入込罷

有候間、様体能存候ニ付、物語り承り書付申候、

湖掘抜元ノ覚

江戸浅草駒方横町

友野与右衛門 是ハ御公儀様を相濟候者也

大伝馬三丁目

橋本源右衛門 右同断

メ式人元ノ頭

カネモト
金一元

れいがん嶋

浅井佐次右衛門 是ハ掘抜諸入用まかない致し、惣堰

々仕廻し候而金子九千七百余兩入申候由

小中間

橋本三入

天が崎加右衛門

伏見仁左衛門

ナガハツ
長浜半兵衛

メ四人、是も少々宛金子出合申候而、山ニ居申候、諸

事指図仕候

御公儀様御請負人

スカワ
須川八郎兵衛

かざりや四郎五郎 式人大人

右元メ之後 見くらしい仕候

箱根掘抜初ハ寛文六年丙午ノ七月廿一日か二日ヲ掘初メニ而、寛文拾年庚戌之三月廿五日ニ始テ掘明ケ申候、五年之間昼夜共ニ掘候而其年之内ニ土狩村日損地ヘ水引渡シ懸ケ申候、同年元メ方ヘ下郷々上穀百九拾六俵余出し申候、元メハ請取り申間敷と申候得共、公儀ガ先目出度事ニ候間取候様ニと被仰請取候、七年目迄ニ漸々さらい堰々共ニ仕舞申候、六年めヲ段々畑成田致出来候、其比下郷村々西ノ根村々沼津御代官野村彦太夫様御支配、下郷ニ而竹原と同領之御知行と一領御殿場村ニ御地頭様御座候

右之通り甚左衛門物語有之候

(宝永五年「湯山安右衛門日記」)

裾野市御宿 湯山匡秀氏所蔵

四 寛文六年(二六六六) 御宿村箱根湖水掘抜元締名前書上

寛文六丙午年

箱根掘抜元メ

請負人 浅井治郎兵衛

尼崎加右衛門

長浜半兵衛

友野与右衛門

右四人ニ而願出し、同年七月より堀始メ、五年目戌年

ノ村々用水ニ取申候

須崎源右衛門

後ニ入、メ五人

駿河戸山之内堀抜七百弍拾間堀割五拾七間、深良村之

内須釜土手通り木瀬河落合迄七百弍拾間

(宝永五年「湖水新河木瀬河通り堰々方角改帳」)

裾野市御宿 湯山匡秀氏所蔵)

四 寛文六年(二六六六) 御宿村箱根湖水掘抜水門等記録

覚

一箱根堀抜、寛文六年御訴訟相叶、掘抜被 仰付、寛

文十戌年堀抜成就仕候

戌年ノ明和八卯年迄百二年ニ成ル

掘抜水門口

一幅二間之所江水門を立、高サ五尺、幅三尺五寸宛ノ戸

三本立、右水門口ノ堀割五十二間、穴口六尺四方、右

穴口かうばい、高さ廿四丈四尺、穴口より山之内堀抜、

長七百三十八間

一堀抜穴地行ノ嶺迄高サ五十四丈二尺四寸、

箱根湖水掘抜始り

寛文六年湖水掘抜キ願書元メ四人ノ御代官野村彦太

夫様へ差上ケ、御裏書相済申候

(明和八年伏見村鳥居九郎兵衛「諸書入手帳」)

裾野市御宿 湯山匡秀氏所蔵)

四 寛文六年 佐野村作平箱根湖水掘抜通水記録

四 寛文六年 茶畑村甚右衛門箱根湖水掘貫覚

一 箱根湖水掘抜寛文六年午年堀始メ、同十戌年迄五ヶ年

覚

ニ成就シ、同十一年亥年ヨリ用水引、天保十二丑年迄

一 箱根湖水掘抜之儀、寛文六年午ノ七月堀初、戌年迄五

百七十一年ニ成ル

年ニ成就仕候

一 箱根湖水ヨリ割堀五拾七間、堀貫七百弍拾間、水門高

一 堀抜長七百七拾八間、但六尺四方也

サ五尺、横弍間

一 箱根水三拾六年程以前寛文十一亥ノ年々村々用水ニ罷

一新川 長サ七百弍拾間
横三間ナリ

成候

川筋深良村分佐の村境迄

一 箱根堀抜致候者江戸町人五人罷越目論見致、小田原稻

右堀抜元メ

葉美濃守様御代ニ小田原へも御願申上、江戸御勘定所

稻葉美濃守様御代

へ御願申上、則御法書を以堀貫仕候

源崎源 右衛門

一 堀貫致候入用ニハ、古田之内日損田へ足水ニかけ并畑

浅井佐次右衛門

成田大分出來致候ニ付、水掛り御田地より上石米七年

友野与右衛門

可被遣御定ニ御座候

園 伊右衛門

一 上石米之儀、上田壺反付壺斗九升、中田壺反ニ壺斗七

(天保一二年「万覚書」 裾野市佐野 古谷善和氏所蔵)

升、下田壺反壺斗四升ツ、之勘定を以、小田原領ハ下

土狩御蔵ニ而米六百俵程ツ、七年御渡被成候

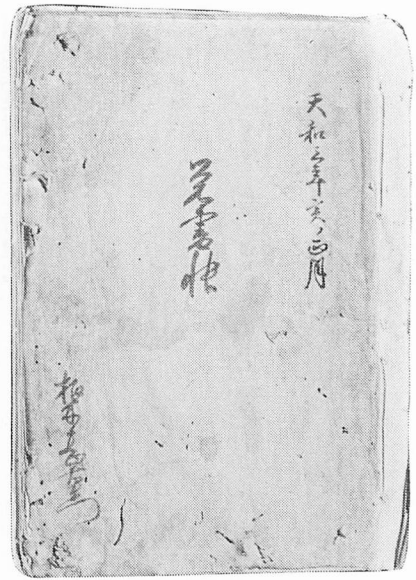


図 (二六六)
寛文六年 上ヶ田村箱根掘抜記録

寛文六丙午箱根堀抜元メ

請負人

浅井次郎兵衛

尼崎加右衛門

長浜半兵衛

友野与右衛門

右之四人ニ而願下シ、同七月ハ堀始メ、五年メ戊ノ年ハ
村ニ用水ニ取申候

須崎源右衛門

後ニ入メ五人

駿河戸山之内堀抜七百廿間、ほりわり五十七間

深良村之内すかま土手通り木瀬川落合迄七百廿間

一 水掛り村三拾ヶ村之内、一兩日てり候へハ一円水届不
申、自分と植付申儀不罷成候村々御座候ニ付、先年稲
葉美濃守様丹後守様御代ニハ、五月田作仕付時分ニハ
御注進申上、御代官衆御越被成候、并御足輕衆五七人
ツ、御越被申候、水差引被成候へ共、他領村々埒明不
申、堰々水論御座候而年々日損大分御座候

(天和三年「柏木甚右衛門覚書帳」)

沼津市 柏木正男氏所蔵)

覚

正月十二日
一 岩波セキ水上ヶ口卯辰へ上ル、木瀬川通り水之流ハ戊

亥ハ辰巳ノ方へ也

第5節 開削の記録

同所セキ口東川落合迄式百七十間、東川落合方箱根水落合迄三百四十間

一箱根水卯方酉に落合申候、同所ニ而木瀬川丑方未へ流、

同所方深良本セキ迄百五十四間

一深良本堰水上ケ口巳ノ方へ上ル、木瀬川水子方午ノ方

へ流、同所堰方御宿上ケセキ迄五十四間

一御宿上ケ堰水申ノ方へ上ル、同所ニ而木瀬川丑方未ノ

方へ落行申候、新堰口方二瀬おまた目水分ケ迄式百八

十間二瀬西川申酉へ流申候、御宿自水也、同所東又巳

午ノ方へわかり申候

石わき・さの・久根・千福の自水

同所自水分ケ口方御宿本セキ迄百五十式間

一御宿本堰水上ケ口午ノ方へ上ル、同所ニ而木瀬川水酉

戌方卯へ流、本セキ方左野^(佐)セキ迄三百五十間、岩波堰

方左野堰迄式拾六丁四十間有

一左野堰水上ケ口巳ノ方へ上ル

同所ニ而木瀬川水子丑方未ノ方へ流、左野堰方千福セ

き迄三百四十間

同十三日 一千福堰水上ケ口申ノ方へ上ル、同所ニ而木瀬川水子ノ

方方午ノ方へ流

千福堰方つなきはし迄式百六十間

一つなきはし方大瀧迄三百廿間

大瀧子方午ノ方へ流

大瀧方めたき落合迄式十間

一め瀧落合方瀧名沢落合迄十四間

セな沢戌亥方辰へ流

一瀧名沢落合方定リン寺富沢セキ迄式百八十間

一富沢堰水上ケ口未申ノ方上ル

同所ニ而木瀬川子方午へ流申候

富沢セキ方堰原堰迄千六十間

木瀬川通り間数は迄也

一堰原セキ水上ケ口子方午へ上ル

同所ニ而木瀬川丑寅方未申へ流

セき原セキ方三間堀水末落合迄三十六間

一 三間堀同落合丑寅方未申ノ方へ、三間堀同落合方堰原

橋場迄九十六間

同橋場ニ而水ノ流亥方巳へ流也

橋場方三又迄式十式間

三又方水窪共言いぬませき迄六十六間

水窪せき方たかせき迄百十式間

高堰方五反田せき迄八十六間

五反田せき方惣ケ原穴せき迄九十四間

穴せき方富岡迄三十六間

とミおか方きぬた迄式百六間

きぬ田せき水上ケ口子方午ノ方へ上ル

本川通り卯へ流、東山ノ川是ト落合

きぬ田せき方二又迄五十間

ふたまた東川卯ノ方へ流

西川辰ノ方へ流

式また西川口方たつちうせき迄百七十八間

たつ中堰方あきつぎ迄百四十四間

中土狩せき共言

あきつぎ水上ケ未申へ上ル

本川通り辰巳へ流

秋つき方ふた松田迄廿五間

ふた松田方はさま迄三十式間

はさま方女来寺前也池田せきまて五百十間

十四日
中土狩村

一 池田堰方高柳せき迄百廿間

下土かり村
高柳水上ケ口巳ノ方へ上ル

高柳方おまいせき迄百六十六間

おまいせき方ふたいせき迄七十八間

水上ケ亥ノ方

ふたいせき水上ケ口巳午ノ間へ上ル

ふたい方ミたけ堂迄百四十式間

ミたけ堂方たいわりせき迄三十八間

たいわり方ねくらせき迄五十八間

ねくら方ひらきせき迄百三間

ひらきな是な竹原之内西がいとせき迄七十式間

西がいとな八反田せき迄七十六間

むくの木せき共言

八反田な富ふか川せき迄八十六間

本川申へ流し水上ケ丑ノ方な伏見竹原かケ合せき迄

富ふか川せき水上ケ辰巳ノ方へ上ル

とみふか川せきな

むくの木な橋場迄四十間

同所な中せき迄六十間

中せきな竹原御の川橋迄六十間

御の川橋な下深田せき迄四十四間

下深田な殿田せき迄三十四間

殿田な塚田せき迄十式間

塚田な上野坪せき迄四拾壹間

上ノ坪な谷口せき迄五十間

谷口なせき富迄貳百四十間

せき富な木瀬川落合迄十六間

堰原堰な木瀬川落合迄

三千百廿九間

壱り十六丁九間

岩波堰な瀬名沢落合迄

貳千五百五十四間

但壱り六丁三十四間有

瀬名沢落合な堰原せき迄

千三百四十間

但廿二丁式十間

岩波せきな堰原せき迄

壱り廿八丁五十四間

岩波せきな木瀬川落合申候小関之下迄

三り九丁三間有

御宿新堰みけん木長サ

一七き口な 三間四尺余
分石迄十間

一分石な あらい迄廿間

一 あらいな かうしん前穴迄百四間

- 一 穴ノ口カ 大川添田尻迄七十間
- 一 四口ノ式百七間之内大川添也
- 一 田尻カウバガ沢橋場迄六十間
- 一 是迄之内年々捨水有、ふしんニ可入念所也
- 一 橋場カ上堀口迄ヘ式間
- 一 上ケ田之内カ上、是カ金沢・葛山ヘ水引申候、上ケ田分モ有ル
- 一 上堀口カまちヤセキ迄廿間
- 一 上ケ田分
- 一 まちヤセキカ横道橋迄百六十間
- 一 同断
- 一 橋カ御宿まちヤセキ迄式間
- 一 御宿分
- 一 まちヤセキカ御宿久保屋敷堰迄五十式間
- 一 同断
- 一 久保屋敷セキカかなヤセキ迄八間
- 一 上ケ田分
- 一 かなヤセキカ村境迄八十八間
- 一 御宿分
- 一 村境カ水窪セキ迄七十一間
- 一 同
- 一 水窪セキカ横道迄六十八間
- 一 同
- 一 横道カ駒方堰迄五十式間
- 一 同
- 一 駒方堰カ同屋敷セキ迄七十八間
- 一 同
- 一 一月屋敷口カカリ又横道迄百十八間
- 一 同
- 一 横道カ横堀落合寺ノ上橋迄六拾式間
- 一 同
- 一 寺ノ上橋カ寺中南境迄四十二間
- 一 同
- 一 境めカカサ森道迄五拾間
- 一 同
- 一 道カ村境橋場用水尻落合迄六十八間
- 一 同
- 一 水尻橋場カ千福堰之上落合迄九十間
- 一 御宿村之内
- 一 新堰口カ千福堰上落合ヘ千二百九十八間
- 一 一ノメ金六千両拝借金右元ノ五人ニ而
- 一 内 四千両七年之内上ノくを以返納式千両江戸ニ可納
- 一 右請負方ヘ水代米
- 一 日損田ハ壹反ニ付米壹斗五升ツ、畑田ニ成ハ壹反ニ付米一斗七升ツ、七ヶ年之内上穀出シ申候定メ
- 一 元禄元年迄十八年之間右元ノ五人ニ而湖水懸リ堰支配致候、此内段々水不足有之候
- 一 元禄二年巳年カ水配役人四人ふち、御宿村平二郎・同断茶畑村甚左衛門（七）兩人ヘ被仰付候
- 一 是カ御代官小長谷勘左衛門様御支配被遊候、働之者二人

第5節 開削の記録

壺人ニ付給金貳兩正月七日迄

下田四町九反四畝五歩

一 高三千五百四十六石四斗八合 沼津領

内

箱根水門口江貳里貳拾三丁

千三百四十九石八升九合 まきせきかゝり

同所海尻江三里

一 貳千五百三拾九石八斗九升八合 小田原領

一 苗代溝ハ地山也

只今ノ水門口ツき出しとぶ也

二 口合六千八十六石三斗六合 三十ヶ村高辻

かねほり甚左衛門口上聞書

十五ヶ村まきせき懸り引

一 堀割水門口ハ四ツとめ迄四十七間

残り四千三百廿四石七斗壺升壺合

一 東四ツとめ口ハはらミ石迄百間

惣高壺万千三百四拾三石七升八合

一 壺番かたかり迄百廿間

長式間之

一 御宿うばが沢上ヶ田境ハ上ヶ田村之内

かたかり也

かなや境め迄三百五間之内、上ヶ田村ハ書出し申候

此間百三十間程長ろうか

同所上堀口ハ金沢葛山ハ御宿かなや尼ヶ窪境迄千五百

一 式番かたかり迄貳百五十間

長四尺程

老間

かたかり迄

候のよし上ヶ田ハ書出し申候

一 三番かたかり迄貳百七十間

新堰懸り六ヶ村

長式尺かたかり也

一 高千五百十石五斗五升貳合

高辻

是ハ右組ノ所ハせまく御座候

内式百五石四升貳合

湖水懸り

一 堀合迄三百三十間余

一 堀合々西ノ長ろうか式百間程

此内ニ廿七八間程ハ式尺ひく
長ろうかノ跡

一 分上り八十六間此所四尺高し

一 大石長九尺ほと

一 たうぢか岩屋長十式間程ノ岩や

一 三枚棚長三間あり

一 西けむり迄六百廿六間此間六十間余とめ

一 四つとめ迄七百廿六間
西方

堀板間数七百廿六間内

三百三十間余 東

三百九十間余 西

東々西迄かうはい四丈四尺也
(宝永五年「木瀬川間数堰々方角覚」)

裾野市上ケ田 柏木新吾氏所蔵)

望 寛文六年 (二六六六) 竹原村箱根湖水掘抜記録

一 湖水掘抜願始之事

寛文六丙午六月、同七月願之通相叶申候、右入用金六

千兩与申事ニ候、午年々戌年迄五ヶ年相掛り、寛文十

一年亥五月四日少々水出ル、同十二年五月廿八日水多

分出ル、畑田ニ成始り稲葉様御内御奉行小山源兵衛殿

茶畑村名主甚右衛門方江御座被成、用水新堀等被 仰

付候、其節中郷江掛り候堀 当時九尺堀与申候、右堀

拔仕候者江戸々参り候由

友野與右衛門

友嶋源右衛門
(須地)

浅井佐右衛門
(次次也)

稲本山八
(種)

是者小割者 深谷八郎兵衛

一 寛文十一年々辰年迄拾八年、右之者共水差引仕候、先

年々黄瀬河瀬名沢引来り水不足ニ付堀拔仕、今三水一

川江流入候得者惣名湖水掛り与唱申候

其後右四人之者、湖水掛り村々拾七年之内上穀ヲ取申

候由

(慶応四年「湖水掛式拾九ヶ村用水堰々反別控帳」)

長泉町 高橋久雄氏所蔵

刈崎源右衛門

山友 山友

罌

(一六六七)

寛文七年八月朔日 茶畑村甚右衛門箱根掘貫記録

其節当村御料所御代官野村彦太夫様

(中略)

一 箱根堀貫未八月朔日初、亥ノ四月廿日ニ出来候、水
通り候事廿二日ノ通り候

堀抜仕候者江戸町人

友野与右衛門 浅井佐次右衛門

橋本 山入 須崎源右衛門

(天和三年「柏木甚右衛門覚書帳」)

沼津市 柏木正男氏所蔵

罌

(一六六一一七三)

寛文年中 小田原藩箱根湖水掘抜規模・元締等書

上

一 箱根湖水、東西壹里拾壹町、南北二里五町御座候

一同湖水乾方駿河戸山堀貫有之、駿州御厨領・沼津領田

地之用水ニ仕候、堀貫之口高八尺横六尺、奥行七百拾

五軒、右堀貫請負之元ノ江戸町人浅井佐次右衛門・同

罌

(一六七〇)

寛文一〇年 富沢村箱根湖水掘抜記録

一 箱根湖水堀抜御普請被仰付候者、寛文十年戌ノ亥迄、
御入用六千兩与申伝

御普請役

浅井佐治右衛門

橋本山入・同須崎源右衛門・同友野与右衛門・須賀屋
八郎兵衛・大坂屋太郎右衛門

一駿河戸山堀貫江元箱根より船参候者改候義、権現領元
箱根名主共ニ手形度々申付有之

〔貞享三年「稲葉家引送書」 神奈川県小田原市

岩瀬正直氏所藏『神奈川県史資料編』より引用〕

呪

(一六六―一七三)
(寛文年中)

久根村箱根山湖水堀貫元締名前書上

寛文年中箱根山湖水堀貫元メ方

友野與右衛門

浅井佐次右衛門

須崎源右衛門

長浜半兵衛

天崎嘉右衛門

右手代山本市左衛門与申者病死いたし、下土狩村清体寺

ニ取置申候

(弘化三年「箱根山湖水御普請願立銘細控帳」)

裾野市久根 勝又重俊氏所藏)

第六節 開削後の村々

分米拾六石六斗九升六合

内

壹畝九歩

当水押

分米壹斗五升六合

残壹町三反七畝廿五歩

分米拾六石五斗四升

下田八反九畝壹歩

分米八石九斗三合

田合七町貳反八畝廿五歩半

分米百石七斗貳合

内

壹斗五升六合

当水押

五斗貳升五合

亥ノ畑ニ成

残百石貳升壹合

残石

一畑方百廿三石壹斗七升八合

此分ケ

上畑四町八反八畝八歩

吾
寛文二一年一〇月一四日 御宿村田畑指出状
(二六七二)

亥ノ年御宿村田畑御指出シ之事

一田方百石七斗貳合

此分ケ

上田五町貳拾歩半

分米七拾五石壹斗三合

内

三セ拾五歩

亥ノ畑ニ成

分米五斗貳升五合

残四町九反七畝五歩半

残毛

分米七拾四石五斗七升八合

中田壹町三反九畝四歩

分米三十九石六升壹合

内

壹反八畝四步

亥午田ニ成

分米壹石四斗五升壹合

一下畑七町六反四畝九步半

上ノ原新田

残四町七反四步

畑残毛

分米三十八石貳斗壹升六合

分米三十七石六斗貳升壹合

内

中畑貳町九反七畝步

壹町六反六畝廿四步半

未ノ起間

分米廿石七斗九升

分米八石三斗四升壹合

壹畝步 分米七升

亥午田ニ成水押

残五町九反七畝拾五步

残毛

内貳反四畝拾七步

亥午田ニ成

分米貳十九石八斗七升五合

分米壹石七斗壹升九合

同残毛

屋舗三反五畝廿六步

残貳町七反壹畝十三步

畑残毛

分米三石五斗八升七合

分米拾九石壹斗

内

下畑四町三反拾四步半

三七八步

午ノ田ニ成

分米貳十壹石五斗壹升四合

分米三斗貳升七合

内

残三反貳畝拾八步

屋敷残毛

三反七畝拾步

亥午田ニ成

分米三石貳斗六升

第6節 開削後の村々

畑屋敷合百廿町壹反五畝廿八歩

拾五歩

当水押

分米百廿三石壹斗七升八合

分米五升

残壹反四畝壹歩

残毛

七升

亥午田ニ成水押

分米壹石四斗四合

五石三斗六升四合

同残石

外

三石貳斗六升

屋敷残石

一畑方貳十五石四斗七升八合

右同断

百拾四石四斗八升四合

畑残石

此分ケ

田畑合貳拾七町四反四畝廿三步半

下畑五町九畝拾七歩

分米貳百廿三石八斗八升

分米廿五石四斗七升八合

外

内

一田方壹石五斗七升七合

亥ノ改出シ

壹畝歩

田ニ成当水押

此分ケ

分米五升

下田壹反五畝廿三步

下り 壹反壹畝拾四歩

同残毛

分米壹石五斗七升七合

分米五斗七升三合

内

残四町九反七畝三步

畑残毛

壹畝七歩

当川成

分米廿四石八斗五升五合

分米壹斗貳升三合

田畑合五町貳反五畝拾歩

分米廿七石五升五合

一手五斗九升

山手役

三 寛文二年一月二日 富沢村年貢割付状

右当亥ノ歳田畑御指出シ、沓畝沓歩之所も無隠并ニ永

富沢村亥之御年貢可納割付之事

不・川成之場所銘々相改、当川成水押帳請取水帳を以致

一田方百四石式斗五升沓合

吟味、如此御指出し仕上ケ申候、若偽致悪敷致御座候ハ

此わけ

、拙者とも越度ニ可被仰付候、諸事出入無御座候、以

上田五町五反八畝式拾沓歩

上

内式町四畝拾七歩色違入

寛文拾壹年

御宿村

内

亥ノ十月十四日

庄や 半右衛門

四反八畝式拾六歩

竿違

同 忠左衛門

四畝五歩

当付荒

同 権兵衛

沓町式反三畝歩

同検見捨

組頭 甚右衛門

内五反五畝式拾式歩色違入

野村彦(太) 大夫様

沓町四反四畝式拾歩

色違残毛

御手代衆

此取七石三斗七升八合

但五斗沓升代

(裾野市御宿 湯山匡秀氏所蔵)

式町三反八畝歩

残毛

此取拾三石八斗四合

但五斗八升代

中田沓町八反式畝七歩

第6節 開削後の村々

内六反壹畝貳拾三步色違入

此わけ

内

壹反六畝拾五歩

竿違

上畑壹町九反七畝貳拾四歩
此取五石三斗四升壹合

但貳斗七升代

六畝貳拾六歩

当付荒

中畑壹町壹反四畝壹歩

内四せ歩色違入

此取貳石五斗九合

但貳斗貳升代

四反五畝六歩

同検見捨

下畑壹町八反七畝拾九歩

内壹反六畝貳歩竿違入

此取三石壹斗九升

但壹斗七升代

四反壹畝貳拾壹歩

色違残毛

屋敷貳反貳畝貳拾九歩

此取壹石九斗壹升八合

但四斗六升代

此取壹石壹斗四升八合

但五斗代

七反壹畝貳拾九歩

残毛

高合百三拾八石五斗九升五合

此取三石八斗壹升四合

但五斗三升代

此取四拾石六斗四升

下田四反壹畝貳拾歩

一田方壹石四斗三升三合

戌之改新田

内

此分ヶ

八畝貳拾八歩

当検見捨

下田壹反四畝拾歩

但三斗代

三反貳畝貳拾貳歩

残毛

此取四斗三升

此取壹石五斗三升八合

但四斗七升代

一畑方四石八斗八升

一畑方三拾四石三斗四升四合

此分ヶ

下畑九反七畝拾八歩

此取九斗七升六合

但壹斗代

高合六石三斗壹升三合

此取壹石四斗六合

外

一米式斗

山手役

右之通大小之百姓立合無高下致内割、来ル極月五日以前

一銀子壹枚

同村 助左衛門

可有皆済、若其過令油断者譴責を以急度可申付者也

此金三分

公文名村 平左衛門

寛文拾壹年

一銀子壹枚

同村 甚右衛門

亥霜月廿一日

野彦太夫[㊦]

此金三分

茶畑村 甚右衛門

右名主

一銀子壹枚

同村 仁右衛門

中

此金三分

同村 仁右衛門

百姓

一銀子壹枚

同村 伊右衛門

(裾野市富沢 渡辺武彦氏所蔵)

此金三分

いつ嶋田村 伊右衛門

一銀子壹枚

伊右衛門

此金三分

メ四兩二分

三 寛文二二年六月五日

箱根掘貫畑成田出精褒美銀子

請取狀

請取申銀子之事

一銀子壹枚

深良村 源之丞

此金三分



右ハ箱根堀貫之水ニ而、畑成田ニ情ヲ出し申候ニ付、為
御褒美被下置難有拝領仕、請取申所実正也

寛文十二年子六月五日

大嶋所右衛門殿

奥田千右衛門殿

(裾野市公文名 市川逸朗氏所蔵)

三 寛文一二年一月二三日 富沢村年貢割付状

富沢村子之御年貢可納割付之事

一田方百拾六石七斗壹升貳合

内 拾壹石貳升八合 当子改出石

内 壹石四斗三升三合 同子改戌新田本途入

此わけ

上田四町四反四畝貳步

内

六反壹畝拾七步 当検見捨

三町八反貳畝拾五步 残毛

此取貳拾石六斗五升五合 但五斗四升代

中田貳町八反七步

内

四反貳畝拾六步

当檢見捨

貳町三反七畝貳拾壹步

残毛

此取拾壹石六斗四升七合 但四斗九升代

下田貳町貳反八畝七步

内九反五畝拾三步 山田入

内

貳反六畝貳拾六步

当付荒

四反八畝貳拾九步

同檢見捨

内壹反壹セ八步 山田入

八反四畝五步

山田残毛

此取壹石六斗八升三合 但貳斗代

六反八畝七步

残毛

此取貳石九斗三升四合 但四斗三升代

一畑方五(拾五)石三斗七升九合

内貳拾壹石三升五合 当子改出石

此わけ

上畑貳町壹反四畝貳拾壹步

此取五石三斗六升八合 但貳斗五升代

中畑貳町五反壹畝貳拾六步

此取五石三升七合 但貳斗代

下畑貳町九反壹畝貳拾壹步

此取四石八升四合 但壹斗四升代

屋敷五反九畝貳拾六步

此取貳石九斗九升三合 但五斗代

高合百七拾貳石九升壹合

内 三拾貳石六升三合 当子改出石

壹石四斗三升三合 同子改戌新田本途入

此取五拾四石四斗壹合

同所新田

一畑方四石三斗八升三合

外四斗九升七合不足

此わけ

下畑六反五畝拾九步

此取五斗式升五合

但八升代

下々畑五反八畝拾八步

此取三斗五升式合

但六升代

取米合八斗七升七合

外同所見取

一 田方四石三斗五升七合

此わけ

下田五反四畝拾四步

当付荒

一米式斗

山手役

右之通 大小之百姓立合無高下致内割、来ル極月廿日以

前可有皆済、若其過令油断者譴責を以急度可申付者也

寛文拾貳年

野彦大夫^印

子十一月廿三日

右名主

百姓 中

酉
延宝二年正月一九日 小田原藩箱根掘貫穴浚奉行任

命記録

(裾野市富沢 渡辺武彦氏所蔵)

正月九日 曇 時々晴

一 布施与惣左衛門・小侯長右衛門・箱根堀貫之儀共目論見、今晚小田原方罷越也

正月十四日 曇 晚方雨

一 小侯長右衛門・布施与惣左衛門、今宵被召出、堀貫見分之様子御聞被遊

正月十九日 雨天

一 箱根堀抜之儀ニ付御用有之、小侯長右衛門・布施与惣左衛門、先日被召寄候処、御用相済、今日小田原江罷立候、就夫兩人ニ銀子二枚宛被下置、但シ堀貫穴之内湖之方々百七十間之間、深二尺・幅三尺ニ御浚被下ニ

依而、兩人共ニ奉行被仰付

(延宝二年『小田原藩永代日記』)

京都市 田辺陸夫氏所蔵)

延宝五年十一月「茶畑村明細帳」畑成田・堰すじ

書上

(表紙)

延宝五年

御厨下筋茶畑村

巳十一月

九畝廿三步

亥年川成井丑年溝代

壹畝廿六歩

寅年屋敷ニ成

拾九町六反五畝拾貳歩

水田ニ而麦作不仕候

拾町九反八畝廿八歩

麦作仕候分

畑方三拾八町三反五畝廿歩

わけ

拾三町八反壹畝廿歩

箱根堀貫水ニ而亥子兩年畑成田

四畝廿三步

子年地水ニ而畑成田

壹反貳畝五歩

亥子兩年堰溝代

残式拾四町三反七畝三步

一畑反別式拾五町八反五畝廿四歩

平松分

わけ

壹反式畝廿歩

亥年〆年々堰代

拾三町九反四畝三步

箱根堀貫水ニ而年々畑成田

残拾壹町七反九畝壹歩

一田畑反別百拾町六反拾歩

内 田畑四反七畝拾壹歩 寺社免

田方五拾壹町九反壹畝歩

内拾五町八反余箱根堀貫水掛り畑成田

わけ

一 高五百式拾九石四斗式升七合 先高

内五拾式石三斗 平松新田分

一 高七百拾四石七斗式升八合 今高

内百六石八斗七升七合 平松新田分

ノ

一 野畑三町壹反九畝廿八歩 本村分

一 野畑九反壹畝拾七歩 子年見出し

一 下々田八畝廿九歩 子年見出し

一 野畑三反廿七歩 平松新田分

一 下畑九反三畝拾六歩 子年見出し

一 馬數合百式疋 内式疋牛

一 当村用水 此水本文名村境瀧頭堰を取申候

但瀧頭・中丸・茶畑・中尾ニ而遣申候、此道法式三

町又者七八町程も御座候、則本田壹町式反余并ニ畑

成田三町余へかけ申候、右之本川段々公文名村并ニ畑

茶畑村田地中を通り、伊豆境之川へ落合申候、此川

筋ニ高サ五丈余之滝壹ヶ所御座候、但箱根堀貫水も

少落合通り申川ニ而御座候

一 当村本田仕付申水、東山大谷川其外谷々水落合申候

此水わけ

一 高堰 壹町四反余へかけ申候

長五間半かこ五間付芝

一 すほろ、あら堰 山入并向田川東本田八町余へかけ申候

長九間かこ堰

一 宮下堰 向田川西本田五町余へかけ申候

長五間半かこ堰

一 榎木田堰 樋前つめがかませき迄百五間、樋がむかい五間 前ノ本田六町四反歩程へかけ申候

まち長九間

但せき道法中程ニ長五間余之樋壹ヶ所御座候、右之樋

木先年御公儀様を被下候、并山出人足村々へ被仰付、

尤御奉行被仰付候

一 山入三町余へかけ申井堰、かにか窪井菅沢・あふミ

沢・かね引場と申ニ自分之小せき共御座候

右五ヶ所之井堰、此水本東山大谷并此川筋ニ毎年川除

場御座候

一 伊豆境峯下ニ而之用水、伊豆・駿河境之川々峯下せきニ而取申候、則本田式町余へかけ申候

一 同市之瀬ニ而之用水、伊豆境大沢々市之瀬せきにて取(申候)□□、則本田九反余へかけ申候

一 伊豆・駿河境川、此水本東山大沢そぶと申々茶畑村之内市之瀬峯下本村名主甚右衛門前々麦塚村・伊豆嶋田村脇へ通り申候、但そぶより麦塚村境迄此道法式里拾式三丁御座候、此川筋ニ毎年川除場御座候

右之井堰川除普請仕人足、式百四五拾人程宛毎年入申候、年ニ々人足多少御座候

一 畑成田仕付申水三間新川々取申候、此水箱根堀貫水深良村之内かろう戸ニ而木瀬川へ落合参候川、石脇村之上佐野せき々取申候、則ゆるき橋久根村・公文名村・茶畑村通り、伊豆嶋田村之内堰原せきへ落申候、此道法佐野堰々堰原迄壹里四五丁程御座候、此水茶畑村畑成田拾町余へかけ申候、佐野堰々道法式拾二三町程参

茶(畑村)□□之内八幡脇にて三間川之水取申候、八幡脇々段々道法□□三町又ハ六七町程参、茶畑村分畑成田へかけ、茶畑村之内平松新田畑成田拾三町余へかけ申水、

佐野堰々道法式拾四五町又ハ三拾丁も参、三間堀よりかけ申候、則平松新田用水ニも遣申候

一 佐野堰場所長五拾六間皆石岩之上ニ而籠せきニ仕候、水節々遣申度籠押なかし、日数五十日之内五度も三度(6)□人足出し仕直し申候、右何茂井堰普請之儀、御公儀様より御奉行人被仰付御配符次第、村々々人足出普請仕候、但人足壹人ニ付一日ニ御扶持米式合五夕宛被下候

一 平松新田居村々西之方三間川通り申候、則川々西ニ座頭之供養塚石塔壹つ御座候、并川々東之方平松と申九尺廻り之松壹本御座候

(中略)

一 井堰川除人足御割付次第毎年出し申候、但人足壹人ニ付一日ニ御扶持米式合五夕宛被下候

第6節 開削後の村々

(中略)

延宝五年

茶畑村

上田四町四反四畝式歩

此分ヶ

巳十一月

名主 甚右衛門

内

同 三之丞

壺町壺反拾六歩

当検見捨

組頭 留兵衛

三町三反三畝拾六歩

残毛

同 惣左衛門

此取拾九石六斗七升八合 但五斗九升代

安田勘左衛門様

同 伝左衛門

中田式町八反七歩

組頭 新兵衛

内

同 文左衛門

八反拾歩

当検見捨

同 佐右衛門

壺町九反九畝式拾七歩

残毛

平松新田

此取拾石七斗九升五合 但五斗四升代

組頭 徳右衛門

下田式町式反八畝七歩

(沼津市 柏木正男氏所蔵)

内九反五畝拾三歩 山田入

内

癸

(二六七九)
延宝七年

一月 富沢村年貢割付状

式畝式拾七歩

当付荒

富沢村未之御年貢可納割付之事

内式畝式拾四歩 山田入

一 田方百拾六石七斗壺升式合

四反拾四歩

同検見捨

内巻反五畝巻歩 山田入

七反七畝拾八歩 山田残毛

此取武石巻升八合 但武斗六升代

巻町七畝八歩 残毛

此取五石巻斗四升九合 但四斗八升代

一畑方五拾五石三斗七升九合

此分ヶ

上畑式町巻反四畝式拾巻歩

内式反五畝四歩 田ニ成入

内

式畝式拾歩 用水溝代

三畝拾五歩 田ニ成当付荒

巻反式畝九歩 田ニ成検見捨

九畝拾歩 同残毛

此取三斗七升三合 但四斗代

巻町八反六畝式拾七歩 残毛

此取五石式斗三升三合 但武斗八升代

中畑式町五反巻畝式拾六歩

内巻町巻反七畝拾六歩 田ニ成入
内八畝三歩 当未ノ田ニ成入

内

四反歩 田ニ成当付荒

五反式拾九歩 同検見捨

式反六畝拾七歩 同残毛

此取九斗三升 但三斗五升代

巻町三反四畝拾歩 残毛

此取三石九升 但武斗三升代

下畑式町九反巻畝式拾巻歩

内六反七畝拾三歩 田ニ成入
内八畝八歩 当未田ニ成入

内

式反式拾九歩 田ニ成当付荒

式反八畝式拾八歩 同検見捨

巻反七畝拾六歩 同残毛

此取四斗三升八合 但武斗五升代

式町式反四畝八歩 残毛

此取三石八斗壹升三合 但壹斗七升代

屋敷五反九畝貳拾六步

此取貳石九斗九升三合 但五斗代

高合百七拾貳石九升壹合

此取五拾四石五斗壹升

同所新田

一畑方四石三斗八升三合

此わけ

下畑六反五畝拾九步

内六畝拾四步 田ニ成入
内五畝貳拾八步 当未ノ田ニ成入

内

四畝拾貳步

田ニ成当檢見捨

貳畝貳步

同残毛

此取五升貳合

但貳斗五升代

五反九畝五步

残毛

此取四斗壹升四合

但七升代

下々畑五反八畝拾八步

内拾六步 当未ノ田ニ成入

内

拾六步

田ニ成当付荒

五反八畝貳步

残毛

此取貳斗九升 但五升代

取米合七斗五升六合

同所見取

一田方四石三斗五升七合

此わけ

下田五反四畝拾四步

内

壹反九畝拾五步

当付荒

九畝九步

同檢見捨

貳反五畝貳拾步

残毛

此取四斗三升六合

但壹斗七升代

外

一米貳斗

山手役

右之通大小之百姓立合無高下致内割、来ル極月十五日以前可有皆濟、若其過令油断者譴責を以急度可申付者也

延宝七年

未十一月晦日

野彦太夫^印

右名主

百姓 中

(裾野市富沢 渡辺武彦氏所蔵)

毛 延宝八年正月 「茶畑村明細帳」 畑成田・堰すじ書

上

(表紙)

延宝八年
駿州駿河郡小泉庄茶畑村鏡之帳
申ノ正月

(前略)

一 田畑反別百拾町六反拾歩

内

田畑四反七畝拾壹歩 寺社免

田方五拾壹町九反壹畝歩

拾五町八反余

箱根堀貫水ニテ畑成田

内

三拾六町余

本田

内廿六町余 ふけ田ニテ麦作不申分

畑方廿七町八反八畝拾六歩

平松分

田方拾四町壹反八畝廿壹歩 箱根堀貫水ニテ畑成田

同断

畑方拾六町九反八畝廿八歩

外ニ

野畑三町五反壹畝拾八歩

一 高四百六拾石三升六合 先高

一 高九百七拾貳石七斗七升四合 今高

内三石八斗八升八合 寺社免

第6節 開削後の村々

百九拾七石六斗七升七合 平松新田分

一 馬数合百壹疋

一 牛 壹疋

一 当村用水、此水本公文名村境瀧頭境を取申候、堰場所

長サ拾八間かご堰ニ仕候、此道法二三丁又者七八丁余

も御座候、則本田式町余并ニ畑成田三町余かけ申候、

右之本川段々公文名村を參、茶畑村田地之中を通り、

伊豆境之川江落合申候、此川筋ニ高サ五丈余ノ滝壹ヶ

所御座候、但シ箱根堀貫水も少落合通り申候、右之田

江かけ申水不足仕候得者、公文名村之内みかどせき与

申堰を切水引申候、居村ニ寄外之水を遣申者も御座候

一 当村本田仕付申水、大谷川其外谷々を落合申水ニ而御

座候

此わけ

一 山入本田四町七反余かけ申堰かにか窪・藤沢(マツ)鑑沢・か

ね引場と申ニ、自分之小堰にて有之水かけ申候

一 高堰を取申水、堰口を段々宮上本田町六反余かけ申

候、但堰場所長五間半にてかご堰并五間ハ付芝ニ仕候

一 す、原堰を取申水、堰口を段々山入并ニ向田川東本田

拾町余江かけ申候、但シ堰場所長サ九間かご堰ニ御座

候

一 宮下堰を取申水、道法式三丁程參、向田川西本田五町

五反余かけ申候、但堰場所長サ五間かご堰ニ仕候

一 柿木田堰(取欠)を取申水、道法五六丁程參、前田にて本田六町

五反余かけ申候、但堰場所長サ九間芝土手ニせぎ申候、

并ニ百拾間程付芝之処有之候、則堰道法中程ニ長五間

余之樋壹ヶ所御座候、右之樋木先年を取替候節ハ、御

公(樋)義様へ申上候得者被下候、并ニ山を引人足御奉行人

共被 仰付被下候

右五ヶ所之堰、此水本大谷川筋にて御座候、此川筋ニ

毎年川除場御座候

一 伊豆境市之瀬ニ而用申水、伊豆・駿河境川を壹之瀬堰

ニ而取申候、則本田九反余江かけ申候

一 伊豆境峯下堰を取申水、堰口を段々峯下本田式町余江

かけ申候

一 伊豆・駿河境之川、此水本そぶと申より大沢壺之瀬通、

則麦塚村脇江通り申候、当村境之分道法式里式丁余、

此川筋ニ毎年川除御座候

一 当村井堰川除人足、年ニ三百式三十人程つゝ毎年入申

候、年ニ寄大水出申候へ者、人足大分ニ入申候

一 畑成田拾式町余へかけ申水、茶畑村之内八まん脇ニ而

三間川之水取申候、本堰々道法三十式三丁参、田地ニ

かゝり申候

一 野添堀、此水本公文名村之内にて堰仕取申候、并久

根・公文名村畑成田へ掛候水、大雨之節払堀にて御座

候

一 茶畑村之内平松新田畑成田拾四町余へ掛申水、三間堀

り筋本堰々道法三拾四五丁又ハ壺里余も参りかけ申候、

則平松新田之者用水茂遣申候

一 畑成田植附申時分、てりつよく候て水不足仕候得者、

堰扱人足并ニかろう戸々段々堰落ニ人足出シ、一日ニ

七八度十度も落申候、人足大分ニ入申候

(中略)

一 井堰川除人足、御割付次第、毎年出し申候

(中略)

延宝八年

申正月

茶畑村

名主 甚右衛門

同 三之丞

組頭 新兵衛

同 伝左衛門

同 惣左衛門

同 文右衛門

平松新田

徳右衛門

梅元佐次右衛門様

大嶋伝右衛門様

(延宝八年「茶畑村鏡之帳」

沼津市 柏木正男氏所蔵)

天 延宝八年一〇月 富沢村年貢割付状

申年駿河領富沢村御物成可納割付之事

一高百八拾石八斗三升壹合

内

田高百拾六石七斗壹升貳合

此分

上田四町四反四畝貳步

内五反貳畝貳拾七步 申年檢見引

残三町九反壹畝五步

取米拾八石七斗七升六合 反四斗八升取

中田貳町八反七步

内三反七畝拾九步 申年檢見引

残貳町四反貳畝拾八步

取米拾石四斗三升貳合 反四斗三升取

下田壹町三反貳畝貳拾四步

内

一貳反五畝拾四步

申年檢見引

一七反七畝貳步

畑成田壹町七反貳畝八步之
上石申年元江遺分ニ引

残三反八步

取米壹石壹斗五升 反三斗八升取

下田九反五畝拾三步

山田

内三畝步 申年檢見引

残九反貳畝拾三步

取米壹石五斗七升壹合 反壹斗七升取

畑高五拾五石三斗七升九合

此分

上畑貳町壹反四畝貳拾壹步

内

一貳畝貳拾步

用水溝代

一四反拾八步

田ニ成

内貳畝步 申年檢見引

残三反八畝拾八步

取米壹石三斗九升 反三斗六升取

一 壹町七反壹畝拾三步 残畑

取米四石貳斗八升六合 反貳斗五升取

中畑貳町五反壹畝貳拾六步

内

一 壹町貳反拾六步 田ニ成

内壹反四畝四步 申年検見引

残壹町六畝拾貳步

取米三石壹斗九升貳合 反三斗取

一 壹町三反壹畝拾步 残畑

取米貳石六斗貳升七合 反貳斗取

下畑貳町九反壹畝貳拾壹步

内

一 七反壹步 田ニ成

内六畝壹步 申年検見引

残六反四畝步

取米壹石壹斗五升貳合 反壹斗八升取

一 貳町貳反壹畝貳拾步 残畑

取米三石三斗貳升五合 反壹斗五升取

屋敷五反九畝貳拾六步

取米貳石九斗九升三合 反五斗取

畑高四石三斗八升三合 新畑

此分

下畑六反五畝拾九步

内

一 六畝拾四步 田ニ成

取米壹斗壹升六合 反壹斗八升取

一 五反九畝五步 残畑

取米四斗壹升四合 反七升取

下々畑五反八畝拾八步

内

一 拾六步 田ニ成

取米七合 反壹斗三升取

一 五反八畝貳步 残畑

取米貳斗九升 反五升取

田高四石三斗五升七合

新田

此分

下田五反四畝拾四步

内四畝貳拾壹步

申年検見引

残四反九畝貳拾三步

取米六斗四升七合

反壹斗三升取

一米貳斗

山手役

米ノ五拾貳石五斗六升八合

右之通霜月廿日以前急度皆済可仕者也

延宝八年十月日

小山源兵衛^印

柳吉左衛門^印

劔持助兵衛^印

右之村

名主百姓中

(裾野市富沢 渡辺武彦氏所蔵)

弄 ^(二六八三)
天和三年 茶畑村上穀等記録

四月二日

一当年ノ畑成田七年畑年貢上穀ハ堀貫ノもの方へ遣候筈

ニ候、上田壹反ニ貳斗、中田壹反ニ壹斗七升、下田壹

反ニ壹斗ニ四升つゝ

同日

一水帳ニ無之新田堀貫之者と立合書付相渡、其上ニ而堀

抜之手前可相極事

同日

一駿河戸堀口之番人付置候儀、水掛り之村々より向後扶

持米出可申事、則沼津領も一同ニ定り候

(天和三年「柏木甚右衛門覚書帳」)

沼津市 柏木正男氏所蔵

〇 (二六八六) 貞享三年四月一六日 「佐野村明細帳」 用水普請・

堰書上

(表紙)

貞享三丙寅年

駿州駿河郡小泉庄御厨領佐野村二本松新田共

四月十六日

儀公文明村・茶畑村・麦塚村・伊豆嶋田村右之村共ニ

七ヶ村ニ而堰仕候、御奉行様願申候得者被仰付被下候

一下筋拾式ヶ村之内ニ而堰川除其村々ニ而成兼申時分者

御指図次第人足出申候

(裾野市佐野 古谷善和氏所蔵)

二 (二六八六) 貞享三年四月一六日 「茶畑村明細帳」 用水普請・

水掛り書上

(表紙)

貞享三年

駿州駿東郡御厨領茶畑村指出シ帳

寅四月十六日

一 田地困用水普請、下筋拾式ヶ村組合ニ而仕候、当村普請人足壹年ニ大分入申候得ハ、昼御扶持米被下候儀も御座候

(中略)

一村ニ而田地困用水人足、三拾人余も入申候

一 佐野堰地水先年ハ石脇村・佐野村・稲葉主水様御領分

久根村三ヶ村ニ而堰仕水取申候、前々ハ堰杭槻被下候、

但シ長三間四尺丸木五六尺廻、但箱根堀貫之水拾六年

以前亥年ハ木瀬川江落參候ニ付、村々畑成田仕、堰之

(前略)

一 田地困用水普請ニ下筋拾式ヶ村御つもりを以、近年ハ

村限ニ被 仰付候、当村普請人足壹年ニ三百人程ツ、

遣申候、昼御扶持被下候儀も御座候

(中略)

一下土狩御藏添番式人、下筋拾ヶ村ニ而抱置申候

(中略)

一当村御田地六拾六町余之内、三拾五六町ハ沢水掛り山入ふけ田多ク御座候、残三拾町余ハ箱根堀貫水かゝり、堰本石脇村之上々上ヶ石脇・佐野・久根・公文名四ヶ村ヲ通り、道法菴里余も参候ニ付、内々ニ而ハ水届キ兼申候、其節ハ御奉行衆御越、水御指引被遊被下候

(中略)

一当村槻樋四本内 志本ハ長五間半ニ而はゞ三尺三本ハ長三間ニ而小橋ニ御座候

右橋木樋木槻ニ而取替候節、何方之山ニ而も被下、山を引人足御奉行人も被 仰付被下候

(中略)

貞享三丙寅年四月十六日 茶畑村

名主 甚右衛門

組頭 伝左衛門

同 佐右衛門

同 新左衛門

同 文左衛門

平松新田 甚 四 郎

(沼津市 柏木正男氏所蔵)

三 貞享三年四月一七日 「公文名村・稲荷村明細帳」

堰人足等書上

(表紙)

貞享三年

寅四月十七日

駿州駿東郡御厨公文名村稲荷村御差出帳

宝永五年

子ノ二月伊奈半左衛門様へ差上ヶ申候

(前略)

一村ニ而井堰人足百五拾人余、村ニ而人足出シ申候

一村之内堤三ヶ所、毎年砂入さらい人足三百人余使申候、

右ハ下郷拾三ヶ村ノ人足被仰付、御奉行様心付被遊普請被 仰付候、自然大水ニ而破損御見分之上、何百人ニ而茂御遭被遊候

一 堤槻樋木八本 長式間幅壹尺四寸厚サ壹尺

右之木神山村之山ニ而御役人足ニ而引届ケ申候、拾年

程ニ而取替申候、是茂御奉行様御附被遊候

一 下筋拾三ヶ村之内ニ而堰川除ケ其村ニ而成兼申時分ハ、

御差圖次第ニ人足出シ申候、人足ニ御夫持米被下候儀

も御座候

(中略)

一 下土狩村御藏添番式人、下筋拾三ヶ村ニ而抱置申候

(中略)

貞享三年

寅四月十七日

公文名村

名主 弥 七

組頭 助右衛門

同 権右衛門

惣百姓代 喜兵衛

三

(二六八八)

貞享五年四月二〇日

富沢村他二カ村畑成田につき

下筋五ヶ村に対し口上書

口上書之覚

一 村々畑成田之儀ハ、箱根堀抜水を以拾六年以前丑ノ年

ノ年々畑成田仕、則御公儀様へ帳面差上ケ、本ゾ方へ

も上穀七年宛相渡シ水掛ケ来申候、丑ノ年ノ卯ノ年迄

拾五年之内、何之申分も無御座候所ニ、今年ニ至而下

筋五ヶ村ノ企新規、我々三ヶ村之分御檢地以後之畑成

田禿申度段御訴申上候由、迷惑ニ奉存候、右畑成田之

儀ハ何分ニも御了簡次第ニ奉存候、以上

貞享五年

辰ノ四月廿日

富沢村

名主 仁右衛門

一色村

名主 伊左衛門

納米里村

名主 市郎右衛門

(裾野市富沢 渡辺武彦氏所蔵)

ニ下り申間舗候様に奉存候、是ハ村々畑成田大分出来、其上本ノ普請丈夫ニ不仕候故、如此ニ奉存候、然上ハ

御領・私領水懸(後欠)

(裾野市御宿 湯山匡秀氏所蔵)

六五 貞享五年六月 箱根掘抜水不足に關する下郷訴状

(二六八八)

(端裏書)

「貞享五年辰ノ六月訴状写シ

御宿村主安右衛門」

六五

(二八三二)

天保三年正月 富沢村寛永以降畑成田高入書上ケ覚

覚

乍恐口上書を以申上候事

寛永年中々

一 箱根掘抜水七年已前迄ハ下郷迄沢山ニ有之、六年以來

一 高五石五斗七升

見取場

水不足故年々早損仕候、畢竟元ノ掘抜普請存分ニ不仕

下田壹反拾七步

故、連々水不足ニ罷成候哉と思召し候ニ付、百姓普請

下畑九反八步

ニ致候ハ、末々迄も水可有之候間、水下村々御領・私

寛文十戌年御改見取新田

領共ニ一同ニ願申事ニ候ハ、御公儀へ被仰立可被下

一 高六石三斗壹升三合

旨被仰渡難有奉存候

内

一 箱根掘抜水近年不足仕候ニ付、水懸り村々下郷及湯水

一 高壹石四斗三升三合

ニ迷惑仕候、掘抜湖普請仕候義、拾八年以前本ノ水堤

下田壹反四畝拾步

候分石々水三尺も高溜候様ニ不仕候ハ、下郷迄水存分

是ハ寛文十二子年御檢地本田ニ入

一 高四石八斗八升

下畑九反七畝拾八步

是ハ寛文十二子年御檢地新田高二入

メ

寛文十二子年御改新田御高入

一 高四石三斗八升三合

下畑六反五畝拾九步

下々畑五反八畝拾八步

内

下畑六畝拾四步

延宝七未年ハ畑田成ニ成ル

下々畑拾六步

同年ハ畑田成ニ成ル

右奉書上候通少茂相違無御座候、以上

天保三辰年正月

富沢村

名主 祐 藏^印

組頭 文 助^印

百姓代 儀左衛門^印

沼津

御役所

(裾野市富沢 渡辺武彦氏所藏)